

9) 公害の状況

(1) 大気汚染

横須賀市内の大気汚染常時監視測定局の位置を図 2-2-35 に、令和 5 年度の環境基準の適合状況を表 2-2-35 に、測定結果を表 2-2-36～表 2-2-43 に、経年変化を図 2-2-36～図 2-2-43 に示す。

これによると、光化学オキシダントは環境基準を達成していないが、その他の項目は環境基準を達成している。また、経年変化については各項目で横ばいもしくは減少傾向を示している。

表 2-2-35 大気汚染の環境基準適合状況

区分	測定局	環境基準の適合状況							
		二酸化硫黄 (SO ₂)	一酸化炭素 (CO)	二酸化窒素 (NO ₂)	浮遊粒子状物質 (SPM)	微小粒子状物質 (PM _{2.5})	光化学オキシダント (OX)	ダイオキシン類 (DXN)	有害大気汚染物質
一般環境大気測定局	池上コミュニティセンター	達成	－	達成	達成	短期 達成 長期 達成	非達成	－	－
	追浜行政センター	達成	－	達成	達成	短期 達成 長期 達成	非達成	達成	達成
	久里浜行政センター	達成	－	達成	達成	短期 達成 長期 達成	非達成	達成	－
	西行政センター	－	－	達成	達成	短期 達成 長期 達成	非達成	達成	－
自動車排出ガス測定局	小川町交差点	－	達成	達成	達成	短期 達成 長期 達成	－	－	－
有害大気汚染物質モニタリング地点	横須賀市役所	－	－	－	－	－	－	達成	達成
	横須賀市職員厚生会館	－	－	－	－	－	－	達成	達成

注1：環境基準及び評価方法を以下に示す。

- SO₂ <環境基準>： 1時間値の1日平均値が0.04ppm以下であり、かつ、1時間値が0.1ppm以下であること。
 <評価方法>： 年間の1日平均値のうち、高い方から2%の範囲にあるものを除外（365日分の測定値がある場合は、7日分の測定値を除外）した後の最高値（2%除外値）を環境基準と比較して評価する。ただし、上記の評価方法にかかわらず、環境基準を超える日が2日以上連続した場合は、非達成と評価する。
- CO <環境基準>： 1時間値の1日平均値が10ppm以下であり、かつ、1時間値の8時間平均値が20ppm以下であること。（8時間平均値とは、0時から8時、8時から16時、16時から24時までの各時間帯の平均値をいう。）
 <評価方法>： 年間の1日平均値のうち、高い方から2%の範囲にあるものを除外（365日分の測定値がある場合は、7日分の測定値を除外）した後の最高値（2%除外値）を環境基準と比較して評価する。ただし、上記の評価方法にかかわらず、環境基準を超える日が2日以上連続した場合は、非達成と評価する。
- NO₂ <環境基準>： 1時間値の1日平均値が0.04ppmから0.06ppmまでのゾーン内又はそれ以下であること。
 <評価方法>： 年間の1日平均値のうち、低い方から98%に相当するもの（年間98%値）を環境基準と比較して評価する。
- SPM <環境基準>： 1時間値の1日平均値が0.10mg/m³以下であり、かつ、1時間値が0.20mg/m³以下であること。
 <評価方法>： 年間の1日平均値のうち、高い方から2%の範囲にあるものを除外（365日分の測定値がある場合は、7日分の測定値を除外）した後の最高値（2%除外値）を環境基準と比較して評価する。ただし、上記の評価方法にかかわらず、環境基準を超える日が2日以上連続した場合は、非達成と評価する。
- PM_{2.5} <環境基準>： 1年平均値が15μg/m³以下であり、かつ、1日平均値が35μg/m³以下であること。
 <評価方法>： 長期基準及び短期基準の両方を満足した場合に、環境基準を達成したと判断する。
 長期基準：測定結果の1年平均値を長期基準（1年平均値）と比較する。
 短期基準：測定結果の1日平均値のうち年間98パーセンタイル値を代表値として、短期基準（1日平均値）と比較する。
- OX <環境基準>： 1時間値が0.06ppm以下であること。
 <評価方法>： 昼間の1時間値の年間最高値を環境基準と比較して評価する。（昼間とは、5時から20時までの時間帯をいう。）

注2：有害大気汚染物質であるベンゼン、トリクロロエチレン、テトラクロロエチレン、ジクロロメタンは、環境基準が設定されており、環境基準を以下に示す。

- ベンゼン : 年平均値が3μg/m³以下であること。
 トリクロロエチレン : 年平均値が130μg/m³以下であること。
 テトラクロロエチレン : 年平均値が200μg/m³以下であること。
 ジクロロメタン : 年平均値が150μg/m³以下であること。

注3：ダイオキシン類の環境基準は0.6pg-TEQ/m³以下

出典：「よこすかの環境測定結果（令和6年7月、環境部環境保全課）」（令和6年8月閲覧、横須賀市ホームページ）
 「ベンゼン等による大気の汚染に係る環境基準について」（平成9年環境庁告示第4号、最終改正：平成30年環境省告示第100号）

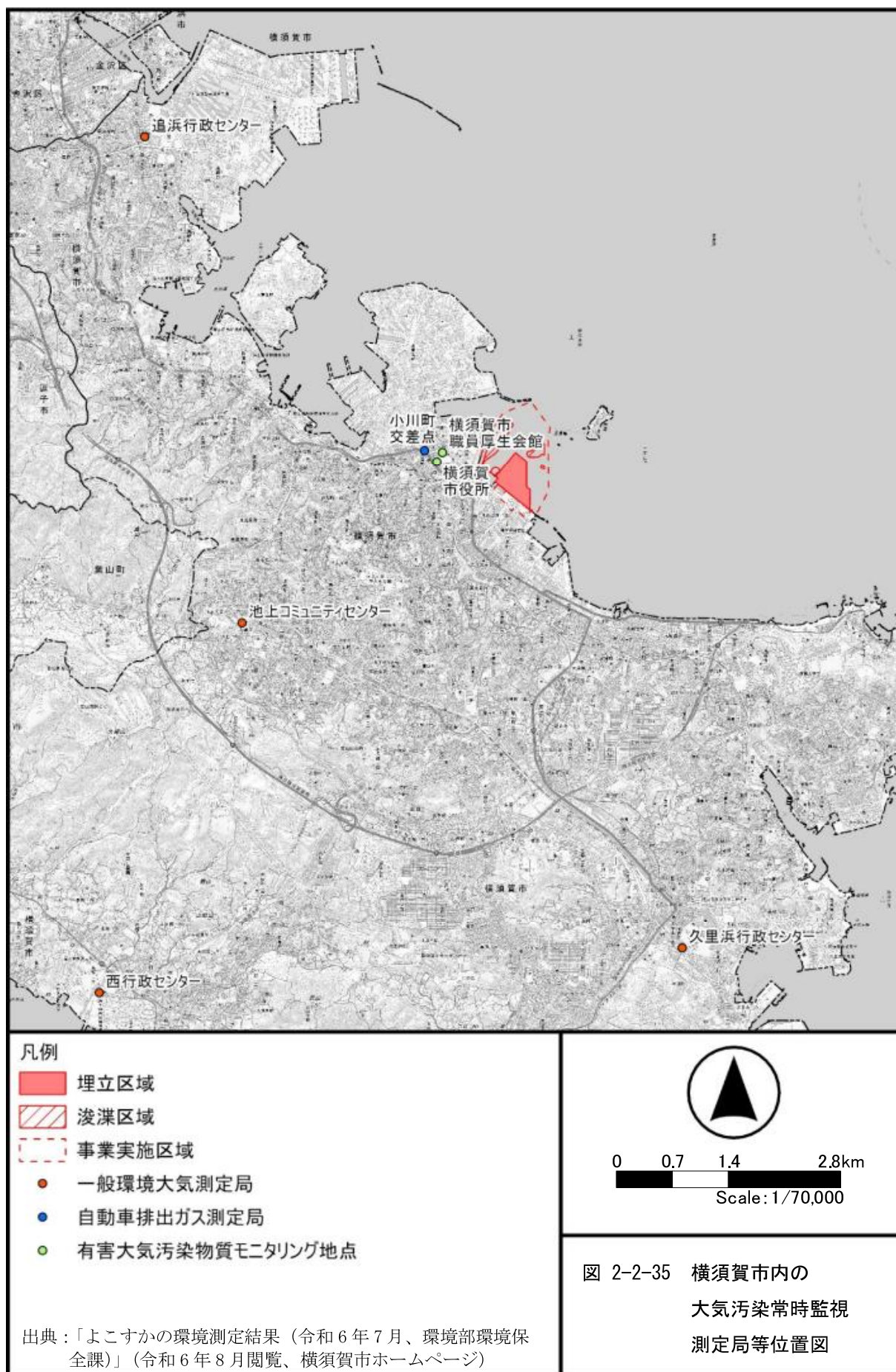


表 2-2-36 (1) 二酸化硫黄の測定結果 (令和 5 年度)

区分	測定局名	有効測定日数	測定時間	年平均値	1 時間値の最高値	日平均値の 2% 除外値	1 時間値が 0.1ppm を超えた時間	日平均値が 0.04ppm を超えた日数	日平均値が 0.04ppm を超えた日が 2 日以上連続した日
		日	時間	ppm	ppm	ppm	時間	日	
一般環境大気測定局	池上コミュニティセンター	364	8576	0.001	0.021	0.002	0	0	無
	追浜行政センター	363	8564	0.002	0.059	0.010	0	0	無
	久里浜行政センター	364	8569	0.001	0.011	0.003	0	0	無

注：環境基準及び評価方法を以下に示す。

SO₂ <環境基準>： 1 時間値の 1 日平均値が 0.04ppm 以下であり、かつ、1 時間値が 0.1ppm 以下であること。

<評価方法>： 年間の 1 日平均値のうち、高い方から 2% の範囲にあるものを除外（365 日分の測定値がある場合は、7 日分の測定値を除外）した後の最高値（2% 除外値）を環境基準と比較して評価する。ただし、上記の評価方法にかかわらず、環境基準を超える日が 2 日以上連続した場合は、非達成と評価する。

出典：「よこすかの環境測定結果（令和 6 年 7 月、環境部環境保全課）」（令和 6 年 8 月閲覧、横須賀市ホームページ）

表 2-2-36 (2) 二酸化硫黄の経年変化（日平均値の 2% 除外値 [ppm]）

区分	測定局名	令和元年度	令和 2 年度	令和 3 年度	令和 4 年度	令和 5 年度
一般環境大気測定局	池上コミュニティセンター	—	—	0.002	0.002	0.002
	追浜行政センター	0.008	0.006	0.008	0.012	0.010
	久里浜行政センター	0.005	0.002	0.002	0.003	0.003

出典：「よこすかの環境測定結果（令和 6 年 7 月、環境部環境保全課）」（令和 6 年 8 月閲覧、横須賀市ホームページ）

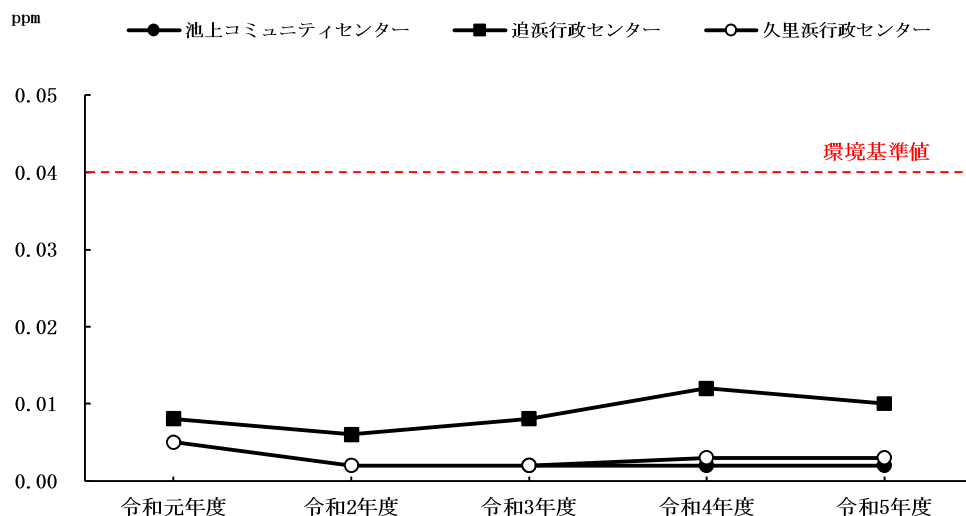


図 2-2-36 二酸化硫黄の経年変化（日平均値の 2% 除外値）

表 2-2-37 (1) 一酸化炭素の測定結果 (令和 5 年度)

区分	測定局名	有効測定日数	測定時間	年平均値	1 時間値の最高値	日平均値の 2% 除外値	8 時間平均値が 20ppm を超えた回数	日平均値が 10ppm を超えた日数	日平均値が 10ppm を超えた日が 2 日以上連続した日
		日	時間	ppm	ppm	ppm	回	日	
自動車排出ガス測定局	小川町交差点	364	8704	0.2	1.3	0.5	0	0	無

注：環境基準を以下に示す。

CO <環境基準>: 1 時間値の 1 日平均値が 10ppm 以下であり、かつ、1 時間値の 8 時間平均値が 20ppm 以下であること。(8 時間平均値とは、0 時から 8 時、8 時から 16 時、16 時から 24 時までの各時間帯の平均値をいう。)

<評価方法>: 年間の 1 日平均値のうち、高い方から 2% の範囲にあるものを除外 (365 日分の測定値がある場合は、7 日分の測定値を除外) した後の最高値 (2% 除外値) を環境基準と比較して評価する。ただし、上記の評価方法にかかわらず、環境基準を超える日が 2 日以上連続した場合は、非達成と評価する。

出典：「よこすかの環境測定結果 (令和 6 年 7 月、環境部環境保全課)」(令和 6 年 8 月閲覧、横須賀市ホームページ)

表 2-2-37 (2) 一酸化炭素の経年変化 (日平均値の 2% 除外値 [ppm])

区分	測定局名	令和元年度	令和 2 年度	令和 3 年度	令和 4 年度	令和 5 年度
自動車排出ガス測定局	小川町交差点	0.6	0.6	0.5	0.5	0.5

出典：「よこすかの環境測定結果 (令和 6 年 7 月、環境部環境保全課)」(令和 6 年 8 月閲覧、横須賀市ホームページ)

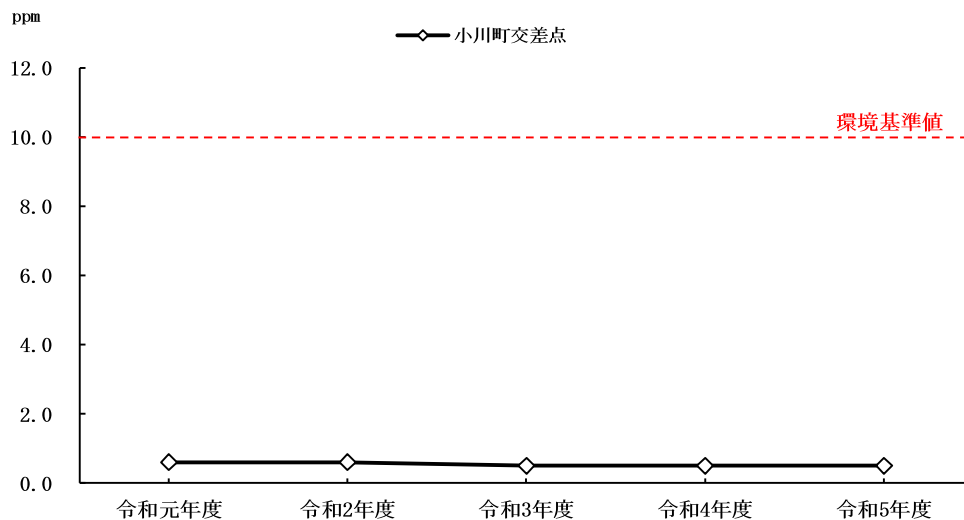


図 2-2-37 一酸化炭素の経年変化 (日平均値の 2% 除外値)

表 2-2-38 (1) 二酸化窒素の測定結果 (令和 5 年度)

区分	測定局名	有効測定日数	測定時間	年平均値	1 時間値の最高値	日平均値の年間 98% 値	日平均値が 0.06ppm を超えた日数	日平均値が 0.04ppm 以上 0.06ppm 以下の日数	98%値評価による日平均値が 0.06ppm を超えた日数
		日	時間	ppm	ppm	ppm	日	日	日
一般環境大気測定局	池上コミュニティセンター	361	8593	0.009	0.061	0.026	0	0	0
	追浜行政センター	358	8498	0.010	0.067	0.030	0	1	0
	久里浜行政センター	362	8541	0.009	0.061	0.026	0	0	0
	西行政センター	354	8440	0.007	0.062	0.022	0	0	0
自排局	小川町交差点	364	8583	0.013	0.108	0.034	0	3	0

注：環境基準を以下に示す。

NO₂ <環境基準> 1 時間値の 1 日平均値が 0.04ppm から 0.06ppm までのゾーン内又はそれ以下であること。

<評価方法> 年間の 1 日平均値のうち、低い方から 98% に相当するもの (年間 98% 値) を環境基準と比較して評価する。

出典：「よこすかの環境測定結果 (令和 6 年 7 月、環境部環境保全課)」(令和 6 年 8 月閲覧、横須賀市ホームページ)

表 2-2-38 (2) 二酸化窒素の経年変化 (日平均値の年間 98% 値 [ppm])

区分	測定局名	令和元年度	令和 2 年度	令和 3 年度	令和 4 年度	令和 5 年度
一般環境大気測定局	池上コミュニティセンター	—	—	0.025	0.026	0.026
	追浜行政センター	0.032	0.033	0.028	0.028	0.030
	久里浜行政センター	0.027	0.029	0.026	0.026	0.026
	西行政センター	0.026	0.025	0.023	0.021	0.022
自排局	小川町交差点	0.034	0.039	0.032	0.035	0.034

出典：「よこすかの環境測定結果 (令和 6 年 7 月、環境部環境保全課)」(令和 6 年 8 月閲覧、横須賀市ホームページ)

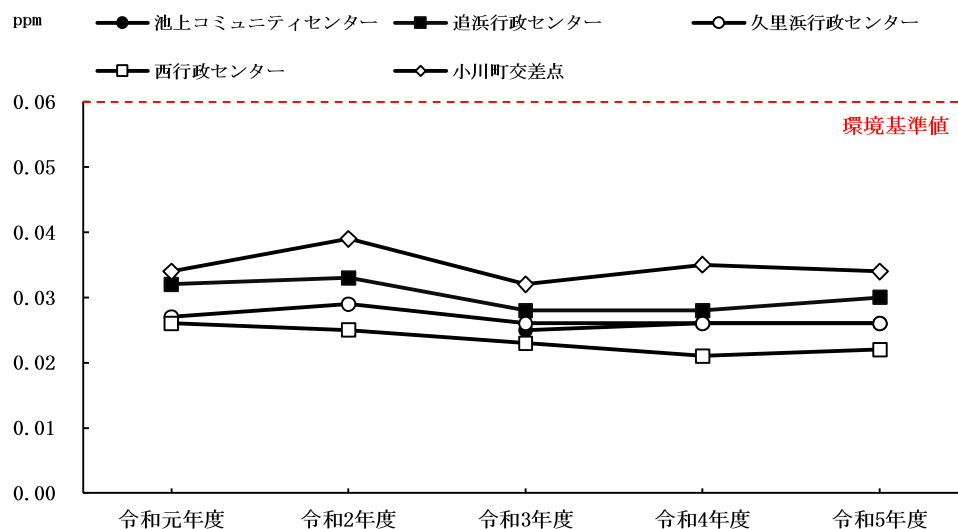


図 2-2-38 二酸化窒素の経年変化 (日平均値の年間 98% 値)

表 2-2-39 (1) 浮遊粒子状物質の測定結果（令和5年度）

区分	測定局名	有効測定日数	測定時間	年平均値	1時間値の最高値	日平均値の2%除外値	1時間値が0.2mg/m ³ を超えた時間数	日平均値が0.1mg/m ³ を超えた日数	日平均値が0.1mg/m ³ を超えた日が2日以上連続した日
		日	時間	mg/m ³	mg/m ³	mg/m ³	時間	日	
一般環境大気測定局	池上コミュニティセンター	363	8726	0.012	0.087	0.027	0	0	無
	追浜行政センター	362	8710	0.015	0.085	0.031	0	0	無
	久里浜行政センター	364	8728	0.014	0.113	0.031	0	0	無
	西行政センター	364	8722	0.014	0.118	0.033	0	0	無
自排局	小川町交差点	364	8733	0.016	0.173	0.033	0	0	無

注：環境基準を以下に示す。

SPM <環境基準>： 1時間値の1日平均値が0.10mg/m³以下であり、かつ、1時間値が0.20mg/m³以下であること。

<評価方法>： 年間の1日平均値のうち、高い方から2%の範囲にあるものを除外（365日分の測定値がある場合は、7日分の測定値を除外）した後の最高値（2%除外値）を環境基準と比較して評価する。ただし、上記の評価方法にかかわらず、環境基準を超える日が2日以上連続した場合は、非達成と評価する。

出典：「よこすかの環境測定結果（令和6年7月、環境部環境保全課）」（令和6年8月閲覧、横須賀市ホームページ）

表 2-2-39 (2) 浮遊粒子状物質の経年変化（日平均値の2%除外値〔mg/m³〕）

区分	測定局名	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
一般環境大気測定局	池上コミュニティセンター	—	—	0.026	0.024	0.027
	追浜行政センター	0.041	0.039	0.030	0.028	0.031
	久里浜行政センター	0.043	0.043	0.039	0.027	0.031
	西行政センター	0.044	0.041	0.037	0.030	0.033
自排局	小川町交差点	0.046	0.037	0.033	0.029	0.033

注：—は未測定を示す。

出典：「よこすかの環境測定結果（令和6年7月、環境部環境保全課）」（令和6年8月閲覧、横須賀市ホームページ）

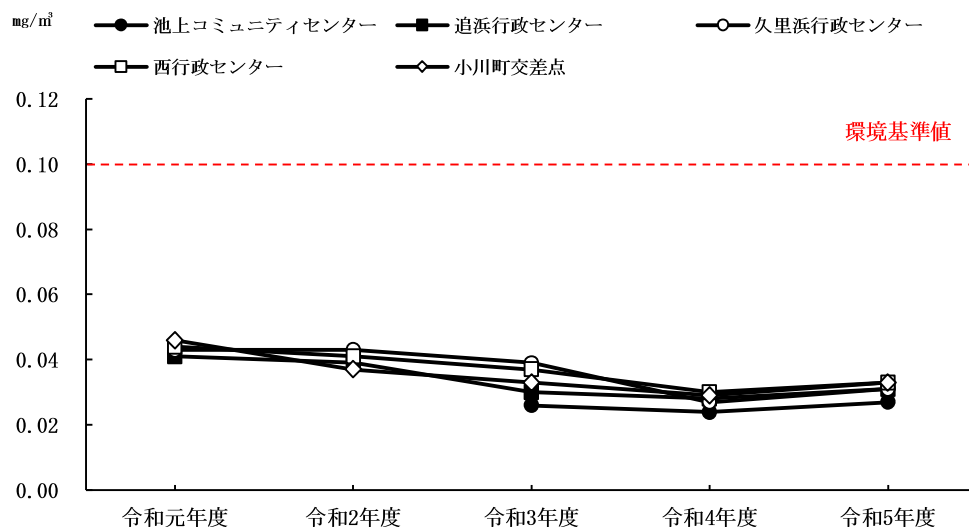


図 2-2-39 浮遊粒子状物質の経年変化（日平均値の2%除外値）

表 2-2-40 (1) 微小粒子状物質の測定結果 (令和5年度)

区分	測定局名	有効測定日数	測定時間	年平均値	1時間値の最高値	日平均値の98%値	日平均値が35 $\mu\text{g}/\text{m}^3$ を超えた日数とその割合		98%値評価による日平均値が35 $\mu\text{g}/\text{m}^3$ を超えた日数
		日	時間	$\mu\text{g}/\text{m}^3$	$\mu\text{g}/\text{m}^3$	$\mu\text{g}/\text{m}^3$	日	%	日
一般環境大気測定局	池上コミュニティセンター	359	8611	7.6	36	17.8	0	0.0	0
	追浜行政センター	347	8381	8.2	47	18.8	0	0.0	0
	久里浜行政センター	359	8613	8.4	40	19.7	0	0.0	0
	西行政センター	358	8605	8.5	41	19.3	0	0.0	0
自排局	小川町交差点	359	8615	8.3	41	21.0	0	0.0	0

注：環境基準を以下に示す。

PM2.5 <環境基準>： 1年平均値が15 $\mu\text{g}/\text{m}^3$ 以下であり、かつ、1日平均値が35 $\mu\text{g}/\text{m}^3$ 以下であること。

<評価方法>： 長期基準及び短期基準の両方を満足した場合に、環境基準を達成したと判断する。

長期基準：測定結果の1年平均値を長期基準（1年平均値）と比較する。

短期基準：測定結果の1日平均値のうち年間98パーセンタイル値を代表値として、短期基準（1日平均値）と比較する。

出典：「よこすかの環境測定結果（令和6年7月、環境部環境保全課）」（令和6年8月閲覧、横須賀市ホームページ）

表 2-2-40 (2) 微小粒子状物質の経年変化（年平均値 [$\mu\text{g}/\text{m}^3$])

区分	測定局名	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
一般環境大気測定局	池上コミュニティセンター	-	-	7.2	7.4	7.6
	追浜行政センター	10.6	10.1	8.8	8.8	8.2
	久里浜行政センター	9.9	9.4	8.5	8.2	8.4
	西行政センター	9.7	8.9	8.1	8.0	8.5
自排局	小川町交差点	10.4	10.5	8.8	8.3	8.3

出典：「よこすかの環境測定結果（令和6年7月、環境部環境保全課）」（令和6年8月閲覧、横須賀市ホームページ）

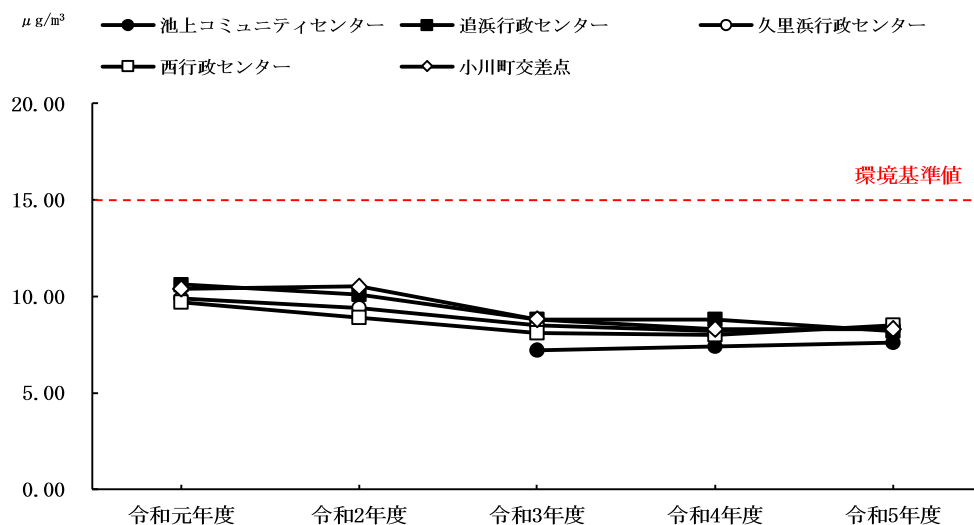


図 2-2-40 微小粒子状物質の経年変化（年平均値）

表 2-2-41 (1) 光化学オキシダントの測定結果 (令和5年度)

区分	測定局名	昼間 測定 日数	昼間 測定 時間	昼間の1 時間値 の年平 均値	昼間の1 時間値 の最高 値	昼間の日 最高 1時間値 の平均値	昼間の1時間値 が0.06ppmを 超えた日数 及び時間数		昼間の1時間値 が0.12ppmを 超えた日数 及び時間数	
		日	時間	ppm	ppm	ppm	日	時間	日	時間
一般 環境 大気 測定 局	池上コミュニ ティセンター	366	5414	0.032	0.097	0.045	54	245	0	0
	追浜行政セン ター	366	5414	0.034	0.110	0.047	61	307	0	0
	久里浜行政セ ンター	365	5385	0.034	0.102	0.047	60	295	0	0
	西行政センタ ー	366	5405	0.036	0.105	0.049	82	397	0	0

注：環境基準を以下に示す。

OX <環境基準>: 1時間値が0.06ppm以下であること。

<評価方法>: 昼間の1時間値の年間最高値を環境基準と比較して評価する。(昼間とは、5時から20時までの時間帯をいう。)

出典：「よこすかの環境測定結果 (令和6年7月、環境部環境保全課)」(令和6年8月閲覧、横須賀市ホームページ)

表 2-2-41 (2) 光化学オキシダントの経年変化 (昼間の1時間値の最高値 [ppm])

区分	測定局名	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
一般環 境大気 測定局	池上コミュニティ センター	-	-	0.116	0.095	0.097
	追浜行政センター	0.158	0.103	0.136	0.114	0.110
	久里浜行政センタ ー	0.125	0.100	0.125	0.098	0.102
	西行政センター	0.111	0.105	0.114	0.096	0.105

注：昼間とは5時から20時までの時間帯を指す。

出典：「よこすかの環境測定結果 (令和6年7月、環境部環境保全課)」(令和6年8月閲覧、横須賀市ホームページ)

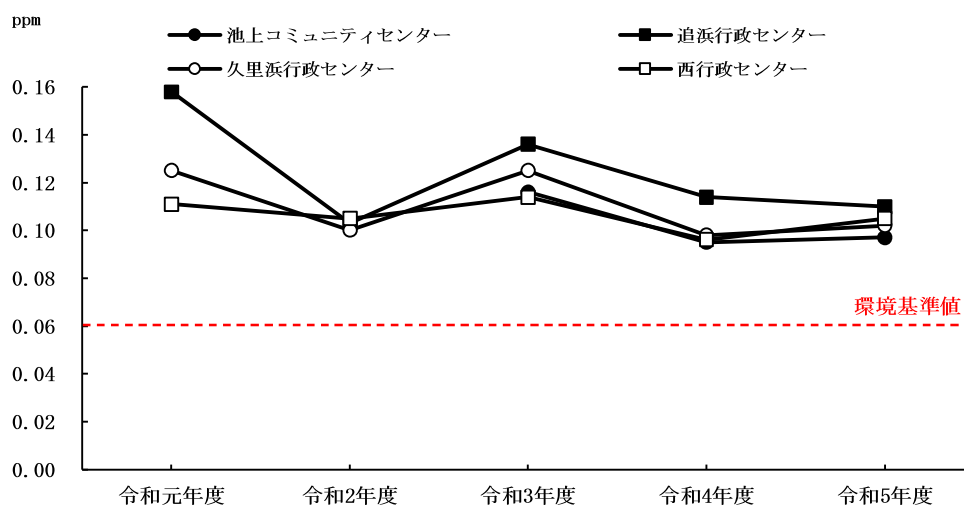


図 2-2-41 光化学オキシダントの経年変化 (昼間の1時間値の最高値)

表 2-2-42 ダイオキシン類の測定結果（年平均値〔pg-TEQ/m³〕）

測定局名	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
横須賀市役所	－	0.017	－	0.0098	－
追浜行政センター	0.0095	0.013	0.018	－	0.0070
久里浜行政センター	0.014	0.014	0.015	－	0.0067
西行政センター	0.0090	0.012	－	0.0097	－
横須賀市職員厚生会館	0.011	－	－	－	－

注：環境基準は「0.6pg-TEQ/m³以下」。

出典：「よこすかの環境測定結果（令和6年7月、環境部環境保全課）」（令和6年8月閲覧、横須賀市ホームページ）

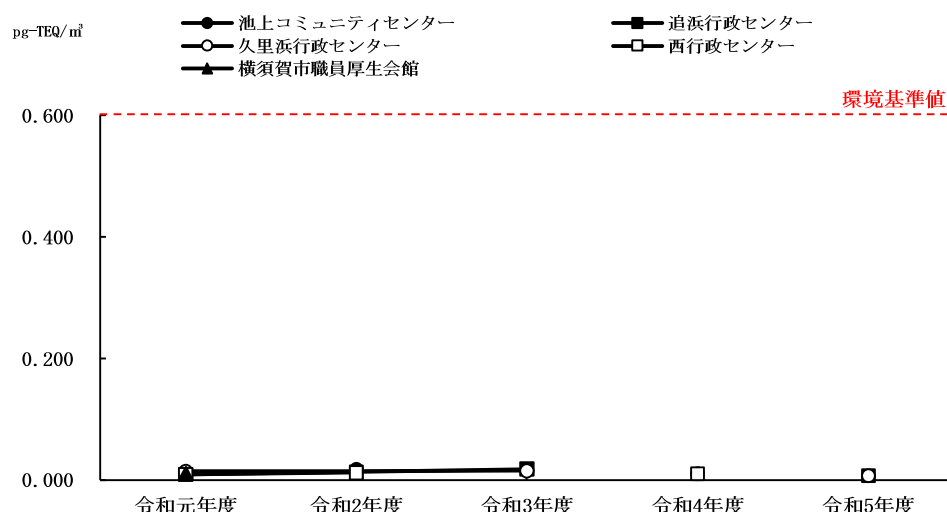


図 2-2-42 ダイオキシン類の経年変化（年平均値）

表 2-2-43 (1) 有害大気汚染物質（ベンゼン）の測定結果（年平均値〔μg/m³〕）

測定局名	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
横須賀市職員厚生会館	0.99	－	－	－	－
横須賀市役所	－	0.72	0.93	0.73	0.71
追浜行政センター	1.1	0.73	0.90	0.66	0.65

注：環境基準は「年平均値が3μg/m³以下であること」。

出典：「よこすかの環境測定結果（令和6年7月、環境部環境保全課）」（令和6年8月閲覧、横須賀市ホームページ）

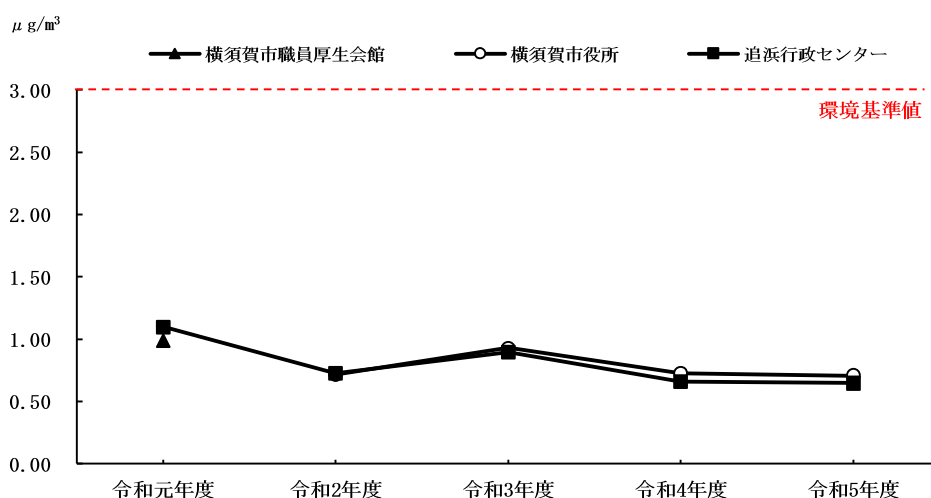


図 2-2-43 (1) 有害大気汚染物質（ベンゼン）の経年変化（年平均値）

表 2-2-43 (2) 有害大気汚染物質（トリクロロエチレン）の測定結果（年平均値〔 $\mu\text{g}/\text{m}^3$ 〕）

測定局名	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
横須賀市職員厚生会館	0.27	－	－	－	－
横須賀市役所	－	0.15	0.27	0.22	0.22
追浜行政センター	0.29	0.20	0.33	0.25	0.23

注：環境基準は「年平均値が $130\mu\text{g}/\text{m}^3$ 以下であること」。

出典：「よこすかの環境測定結果（令和6年7月、環境部環境保全課）」（令和6年8月閲覧、横須賀市ホームページ）

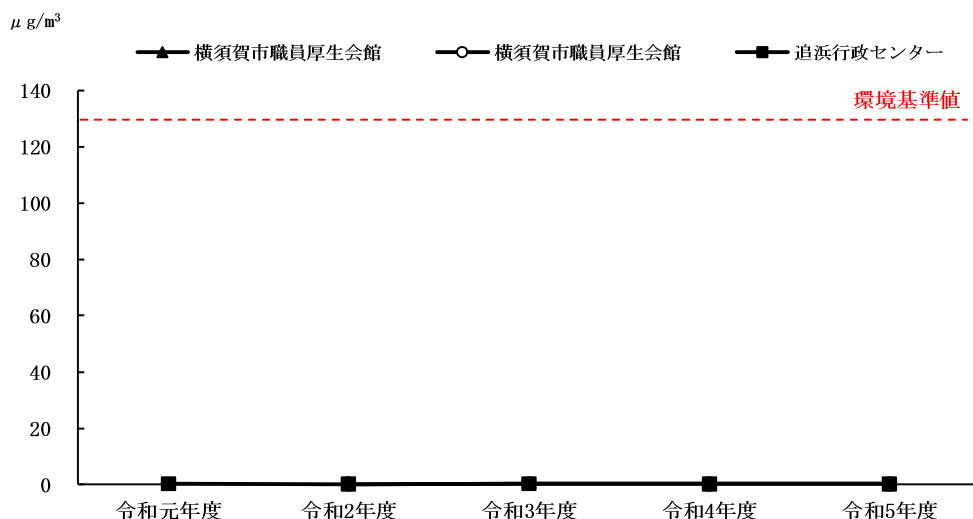


図 2-2-43 (2) 有害大気汚染物質（トリクロロエチレン）の経年変化（年平均値）

表 2-2-43 (3) 有害大気汚染物質（テトラクロロエチレン）の測定結果（年平均値〔 $\mu\text{g}/\text{m}^3$ 〕）

測定局名	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
横須賀市職員厚生会館	0.11	－	－	－	－
横須賀市役所	－	0.056	0.094	0.057	0.067
追浜行政センター	0.13	0.067	0.14	0.072	0.071

注：環境基準は「年平均値が $200\mu\text{g}/\text{m}^3$ 以下であること」。

出典：「よこすかの環境測定結果（令和6年7月、環境部環境保全課）」（令和6年8月閲覧、横須賀市ホームページ）

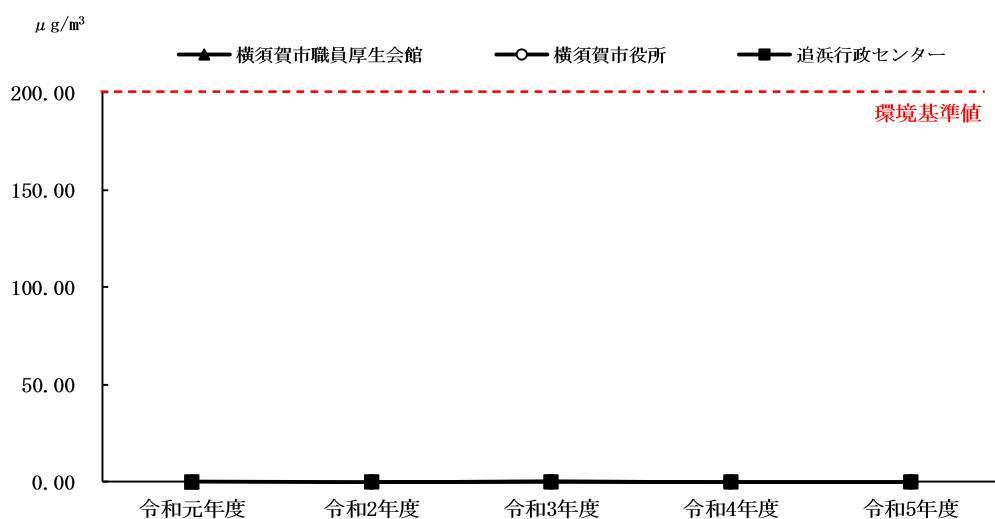


図 2-2-43 (3) 有害大気汚染物質（テトラクロロエチレン）の経年変化（年平均値）

表 2-2-43 (4) 有害大気汚染物質（ジクロロメタン）の測定結果（年平均値〔 $\mu\text{g}/\text{m}^3$ 〕）

測定局名	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
横須賀市職員厚生会館	0.76	－	－	－	－
横須賀市役所	－	0.65	0.76	0.74	1.0
追浜行政センター	0.95	0.76	1.0	0.87	1.4

注：環境基準は「年平均値が $150\mu\text{g}/\text{m}^3$ 以下であること」。

出典：「よこすかの環境測定結果（令和6年7月、環境部環境保全課）」（令和6年8月閲覧、横須賀市ホームページ）

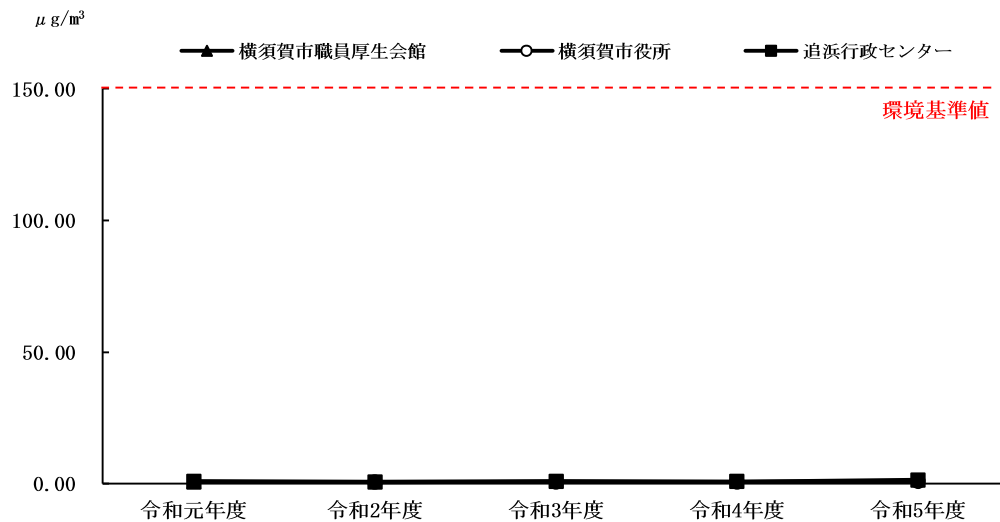


図 2-2-43 (4) 有害大気汚染物質（ジクロロメタン）の経年変化（年平均値）

(2) 水質汚濁

ア. 公共用水域の水質

(ア) 河川

事業実施区域周辺の河川における公共用水域水質測定結果は表 2-2-44、表 2-2-45、表 2-2-46 に、測定地点は図 2-2-45 に示すとおりである。追浜橋、夫婦橋は B 類型、竹川合流後は C 類型に指定されており、いずれの地点においても生活環境項目、健康項目、ダイオキシン類は環境基準を満足していた。BOD75%値の経年変化は図 2-2-44 に示すとおりであり、平成 26 年度に夫婦橋で環境基準値の超過があったものの、それ以降は減少・横ばい傾向にある。令和 5 年度調査では、いずれの地点でも環境基準を満足している。

表 2-2-44(1) 公共用水域水質測定結果（河川、生活環境項目）

測定項目		水素イオン濃度 (pH)	生物化学的酸素要求量 (BOD)	浮遊物質 (SS)	溶存酸素量 (DO)	大腸菌数	類型指定	備考
水域名	調査地点		mg/L	mg/L	mg/L	CFU/100mL		
鷹取川	追浜橋	8	1.9	3	7.7	1200	B類型	環境基準点
平作川	夫婦橋	8	1.3	3	7.6	6500	B類型	環境基準点
松越川	竹川合流後	8.2	1.5	9	8.5	1900	C型類	環境基準点
環境基準	AA類型	6.5以上 8.5以下	1.0mg/L以下	25.0mg/L以下	7.5mg/L以上	20CFU/ 100mL以下	—	—
	A類型	6.5以上 8.5以下	2.0mg/L以下	25.0mg/L以下	7.5mg/L以上	300CFU/ 100mL以下	—	—
	B類型	6.5以上 8.5以下	3.0mg/L以下	25.0mg/L以下	5.0mg/L以上	1,000CFU/ 100mL以下	—	—
	C類型	6.5以上 8.5以下	5.0mg/L以下	50.0mg/L以下	5.0mg/L以上	—	—	—
	D類型	6.0以上 8.5以下	8.0mg/L以下	100.0mg/L以下	2.0mg/L以上	—	—	—
	E類型	6.0以上 8.5以下	10.0mg/L以下	ごみ等の浮遊が 認められないこと	2.0mg/L以上	—	—	—

注 1：表中の測定結果は年平均値であり、生物化学的酸素要求量 (BOD) は 75%値である

注 2：大腸菌数については、追浜橋、夫婦橋は環境基準点とはなっていない。

出典：よこすかの環境測定結果 令和 5 年度（令和 6 年 7 月 横須賀市ホームページ）

表 2-2-44(2) 公共用水域水質測定結果（河川、生活環境項目）

測定項目		全亜鉛	ノニルフェノール	直鎖アルキルベンゼンスルホン酸及びその塩	類型指定	備考
水域名	調査地点	mg/L	mg/L	mg/L		
鷹取川	追浜橋	0.021	不検出	0.0063	生物B	環境基準点
平作川	夫婦橋	0.025	不検出	0.0027	生物B	環境基準点
松越川	竹川合流後	0.017	不検出	0.0084	生物B	環境基準点
環境基準	生物A	0.03mg/L以下	0.001mg/L以下	0.03mg/L以下	—	—
	生物特A	0.03mg/L以下	0.0006mg/L以下	0.02mg/L以下	—	—
	生物B	0.03mg/L以下	0.002mg/L以下	0.05mg/L以下	—	—
	生物特B	0.03mg/L以下	0.002mg/L以下	0.04mg/L以下	—	—

注：表中の測定結果は年平均値である

出典：よこすかの環境測定結果 令和 5 年度（令和 6 年 7 月 横須賀市ホームページ）

表 2-2-45 公共用水域水質測定結果（河川、健康項目）

単位：mg/L

水域名/調査地点 測定項目	鷹取川	平作川	松越川	環境基準
	追浜橋	夫婦橋	竹川合流後	
カドミウム	不検出	不検出	不検出	0.003 以下
全シアン	不検出	不検出	不検出	検出されないこと
鉛	不検出	不検出	不検出	0.01 以下
六価クロム	不検出	不検出	不検出	0.02 以下
砒素	不検出	不検出	不検出	0.01 以下
総水銀	不検出	不検出	不検出	0.0005 以下
アルキル水銀	—	—	—	検出されないこと
P C B	不検出	不検出	不検出	検出されないこと
ジクロロメタン	不検出	不検出	不検出	0.02 以下
四塩化炭素	不検出	不検出	不検出	0.002 以下
1,2-ジクロロエタン	不検出	不検出	不検出	0.004 以下
1,1-ジクロロエチレン	不検出	不検出	不検出	0.1 以下
シス-1,2-ジクロロエチレン	不検出	不検出	不検出	0.04 以下
1,1,1-トリクロロエタン	不検出	不検出	不検出	1 以下
1,1,2-トリクロロエタン	不検出	不検出	不検出	0.006 以下
トリクロロエチレン	不検出	不検出	不検出	0.01 以下
テトラクロロエチレン	不検出	不検出	不検出	0.01 以下
1,3-ジクロロプロペン	不検出	不検出	不検出	0.002 以下
チウラム	不検出	不検出	不検出	0.006 以下
シマジン	不検出	不検出	不検出	0.003 以下
チオベンカルブ	不検出	不検出	不検出	0.02 以下
ベンゼン	不検出	不検出	不検出	0.01 以下
セレン	不検出	不検出	不検出	0.01 以下
硝酸性窒素及び亜硝酸性窒素	0.45	0.67	1.9	10 以下
ふっ素	—	—	0.32	0.8 以下
ほう素	—	—	1.2	1 以下
1,4-ジオキサン	不検出	不検出	不検出	0.05 以下

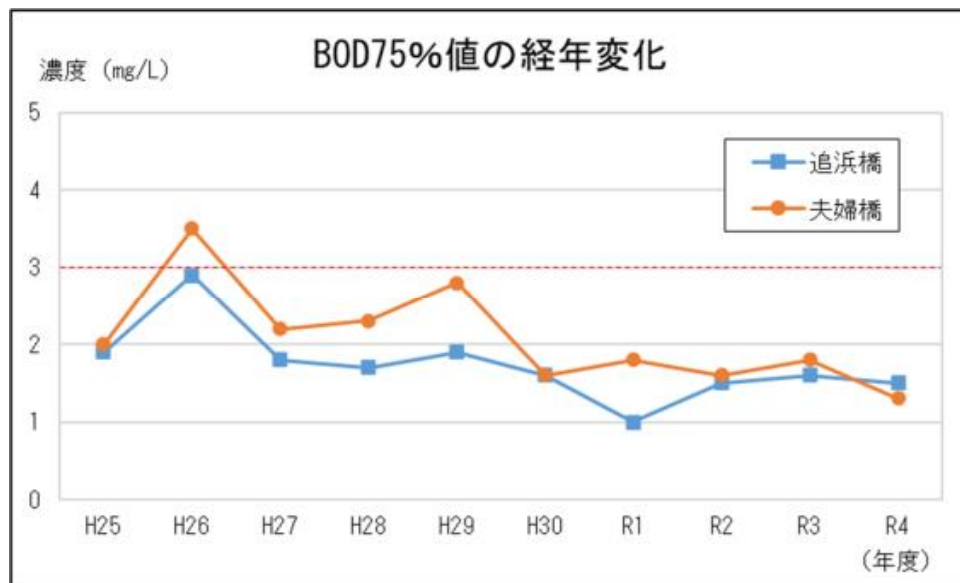
出典：よこすかの環境測定結果 令和5年度（令和6年7月 横須賀市ホームページ）

表 2-2-46 公共用水域水質測定結果（河川、ダイオキシン類）

地点	ダイオキシン類 (pg-TEQ/L)	環境基準値
鷹取川（追浜橋）	0.065	1pg-TEQ/L
平作川（夫婦橋）	0.071	
松越川（竹川合流後）	0.10	

注：採水日は、令和4年8月3日（令和5年度は調査を実施していない）

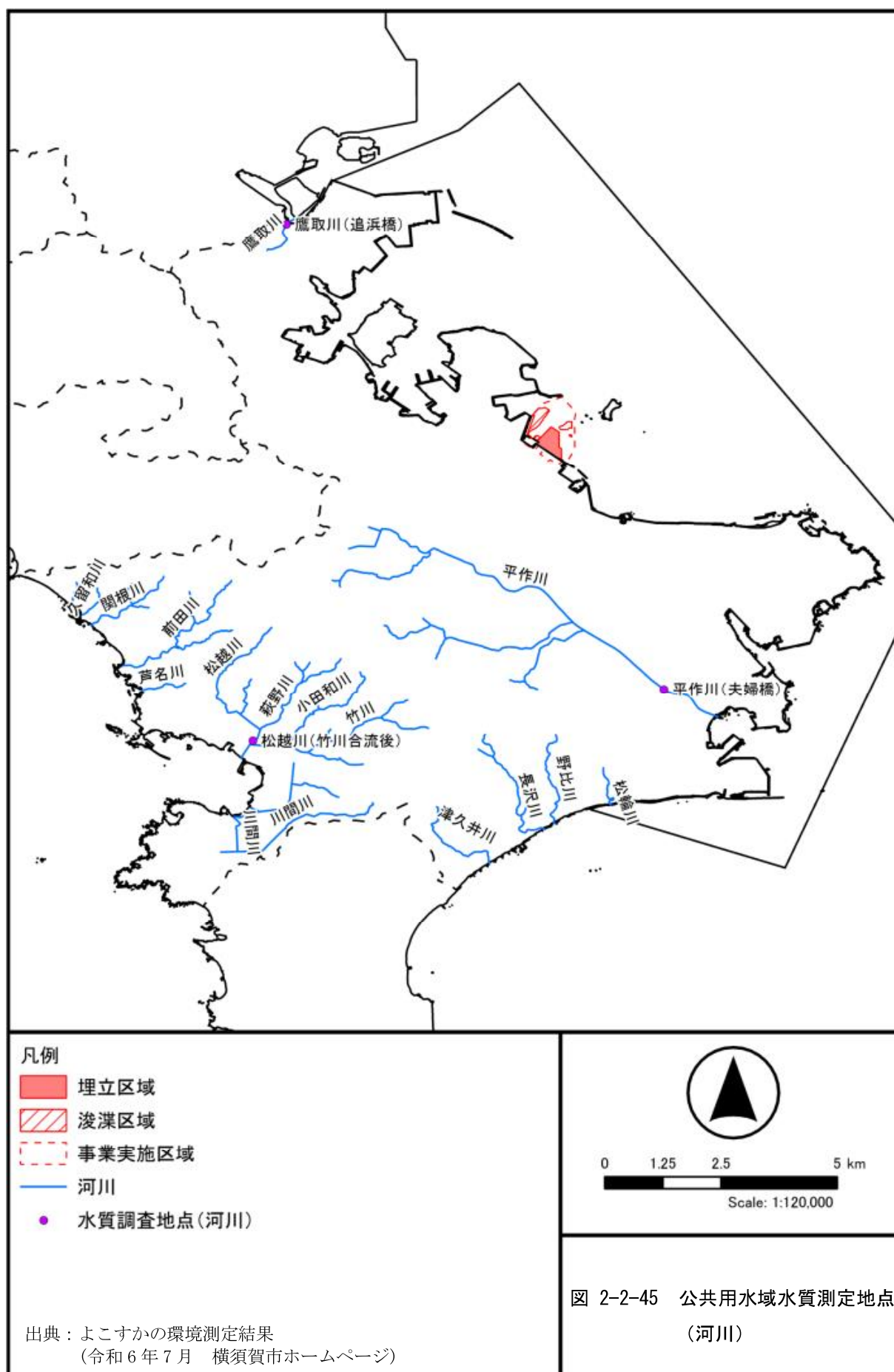
出典：よこすかの環境測定結果 ダイオキシン類 令和4年度（横須賀市ホームページ）



注：赤破線はB類型の環境基準値（3mg/L）を示す。

出典：よこすかの環境測定結果（令和6年7月 横須賀市ホームページ）

図 2-2-44 BOD（75%値）の経年変化



(イ) 海域

事業実施区域周辺の海域における公共用水域水質測定結果は表 2-2-47 に、水質項目別の指定水域と水質測定地点は

図 2-2-49～

図 2-2-51 に示すとおりである。生活環境項目、健康項目、ダイオキシン類について、環境基準点ではいずれの地点においても環境基準を満足していた。

COD75%値の経年変化は図 2-2-46 に示すとおりであり、B 類型、C 類型ともに概ね横ばいで推移しており、いずれの地点も直近の 10 年間は環境基準値を満足している。

全窒素 (T-N)、全磷 (T-P) の表層年平均値の経年変化は、図 2-2-47 及び図 2-2-48 に示すとおりである。全窒素 (T-N) は久里浜港内でわずかに減少傾向にあるが、その他の地点及び項目ではすべて横ばいで推移している。Ⅳ類型の夏島沖 (環境基準点) では環境基準を満足しているが、Ⅲ類型の大津湾では平成 29 年度に全窒素、全リンともに環境基準を超過し、Ⅱ類型の浦賀港内及び久里浜港内では、ほとんどの年で環境基準を超過している。

表 2-2-47(1) 公共用水域水質測定結果 (海域、生活環境項目 : COD)

測定項目		水素イオン濃度 (pH)	化学的酸素要求量 (COD) mg/L	溶存酸素量 (DO) mg/L	大腸菌数 CFU/100mL	n-ヘキサン抽出物質 (油分等)	類型指定	備考
水域名	調査地点							
東京湾 (8)	夏島沖	8.2	3.0	8.2	28	不検出	C	環境基準点
東京湾 (13)	大津湾	8.1	2.3	7.9	6	不検出	B	環境基準点
東京湾 (14)	浦賀港内	8.1	2.0	8.2	35	不検出	B	環境基準点
東京湾 (15)	久里浜港内	8.1	1.9	8.1	140	不検出	B	環境基準点
相模湾 (2)	小田和湾	8.1	1.4	8.2	4	不検出	A	
環境基準	A 類型	7.8 以上 8.3 以下	2.0mg/L 以下	7.5mg/L 以上	300CFU/ 100mL 以下	検出されないこと	—	—
	B 類型	7.8 以上 8.3 以下	3.0mg/L 以下	5.0mg/L 以上	—	検出されないこと	—	—
	C 類型	7.0 以上 8.3 以下	8.0mg/L 以下	2.0mg/L 以上	—	—	—	—

注：表中の測定結果数値は年平均値であり、化学的酸素要求量 (COD) については 75% 値である

出典：よこすかの環境測定結果 令和 5 年度 (令和 6 年 7 月 横須賀市ホームページ)

表 2-2-47(2) 公共用水域水質測定結果（海域、生活環境項目：全窒素・全リン）

測定項目		全窒素 mg/L	全リン mg/L	類型指定	備考
水域名	調査地点				
東京湾(ハ)	夏島沖	0.51	0.053	Ⅳ	環境基準点
東京湾(ニ)	大津湾	0.48	0.051	Ⅲ	
東京湾(ホ)	浦賀港内	0.34	0.034	Ⅱ	
東京湾(ホ)	久里浜港内	0.39	0.036	Ⅱ	
相模湾	小田和湾	0.21	0.024	—	
環境基準	Ⅰ 類型	0.2mg/L以下	0.02mg/L以下	—	—
	Ⅱ 類型	0.3mg/L以下	0.03mg/L以下	—	
	Ⅲ 類型	0.6mg/L以下	0.05mg/L以下	—	—
	Ⅳ 類型	1.0mg/L以下	0.09mg/L以下	—	

注：表中の測定結果数値は年平均値である

出典：よこすかの環境測定結果 令和5年度（令和6年7月 横須賀市ホームページ）

表 2-2-47(3) 公共用水域水質測定結果（海域、生活環境項目：水生生物）

測定項目		全亜鉛 mg/L	ノニルフェノール mg/L	直鎖アルキルベンゼンスルホン酸及びその塩 mg/L	類型指定	備考
水域名	調査地点					
東京湾(全域) [ただし特別域を除く]	夏島沖	0.004	不検出	不検出	生物A	環境基準点
東京湾(ニ)	大津湾	0.009	不検出	不検出	生物特A	環境基準点
東京湾(全域) [ただし特別域を除く]	浦賀港内	0.009	不検出	不検出	生物A	
	久里浜港内	0.01	不検出	不検出	生物A	
相模湾	小田和湾	0.005	不検出	不検出	—	—
環境基準	生物A	0.02mg/L以下	0.001mg/L以下	0.01mg/L以下	—	—
	生物特A	0.01mg/L以下	0.0007mg/L以下	0.006mg/L以下	—	—

注：表中の測定結果数値は年平均値である

出典：よこすかの環境測定結果 令和5年度（令和6年7月 横須賀市ホームページ）

表 2-2-47(4) 公共用水域水質測定結果（海域、健康項目）

単位：mg/L

水域名/調査地点 測定項目	東京湾 夏島沖	東京湾 大津湾	東京湾 浦賀港内	東京湾 久里浜港内	相模湾 小田和湾	環境基準
カドミウム	不検出	不検出	不検出	不検出	不検出	0.003 以下
全シアン	不検出	不検出	不検出	不検出	不検出	検出されないこと
鉛	不検出	不検出	不検出	不検出	不検出	0.01 以下
六価クロム	不検出	不検出	不検出	不検出	不検出	0.02 以下
砒素	不検出	不検出	不検出	不検出	不検出	0.01 以下
総水銀	不検出	不検出	不検出	不検出	不検出	0.0005 以下
アルキル水銀	—	—	—	—	—	検出されないこと
P C B	不検出	不検出	不検出	不検出	不検出	検出されないこと
ジクロロメタン	不検出	不検出	不検出	不検出	不検出	0.02 以下
四塩化炭素	不検出	不検出	不検出	不検出	不検出	0.002 以下
1,2-ジクロロエタン	不検出	不検出	不検出	不検出	不検出	0.004 以下
1,1-ジクロロエチレン	不検出	不検出	不検出	不検出	不検出	0.1 以下
シス-1,2-ジクロロエチレン	不検出	不検出	不検出	不検出	不検出	0.04 以下
1,1,1-トリクロロエタン	不検出	不検出	不検出	不検出	不検出	1 以下
1,1,2-トリクロロエタン	不検出	不検出	不検出	不検出	不検出	0.006 以下
トリクロロエチレン	不検出	不検出	不検出	不検出	不検出	0.01 以下
テトラクロロエチレン	不検出	不検出	不検出	不検出	不検出	0.01 以下
1,3-ジクロロプロペン	不検出	不検出	不検出	不検出	不検出	0.002 以下
チウラム	不検出	不検出	不検出	不検出	不検出	0.006 以下
シマジン	不検出	不検出	不検出	不検出	不検出	0.003 以下
チオベンカルブ	不検出	不検出	不検出	不検出	不検出	0.02 以下
ベンゼン	不検出	不検出	不検出	不検出	不検出	0.01 以下
セレン	不検出	不検出	不検出	不検出	不検出	0.01 以下
硝酸性窒素及び亜硝酸性窒素	0.21	0.19	0.17	0.17	0.11	10 以下
1,4-ジオキサン	不検出	不検出	不検出	不検出	—	0.05 以下

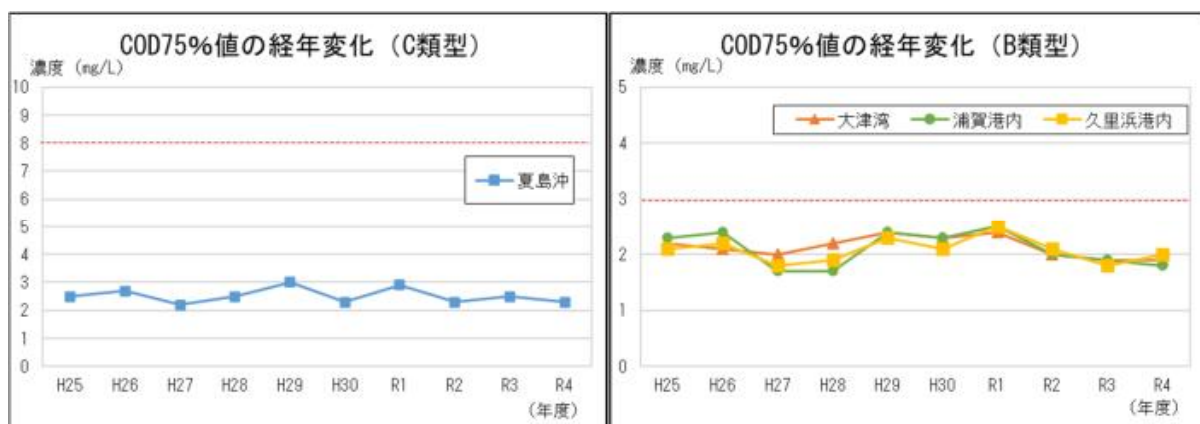
出典：よこすかの環境測定結果 令和5年度（令和6年7月 横須賀市ホームページ）

表 2-2-47(5) 公共用水域水質測定結果（海域、ダイオキシン類）

地点	ダイオキシン類 (pg-TEQ/L)	環境基準値
夏島沖	0.068	1pg-TEQ/L
大津湾	0.079	
浦賀港内	0.086	
久里浜港内	0.081	
小田和湾	0.075	

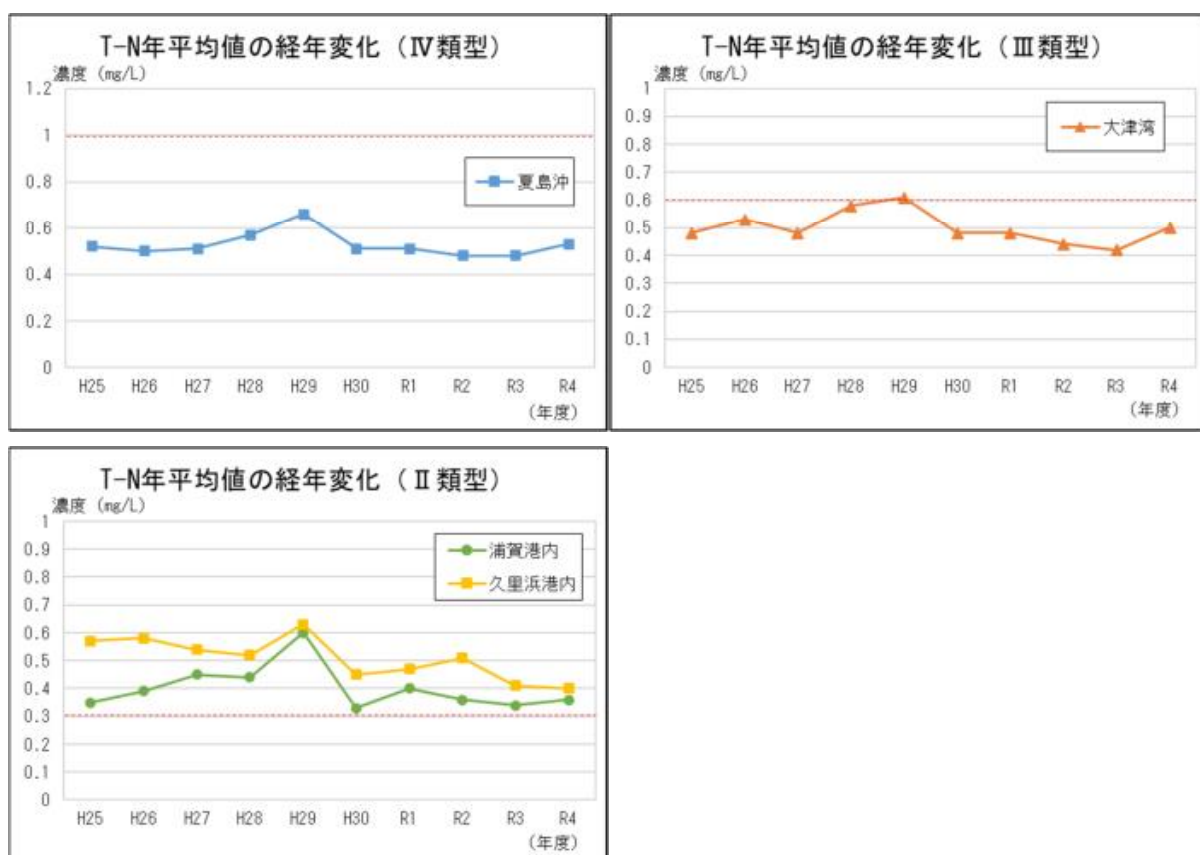
注：採水日は、令和5年8月5日

出典：よこすかの環境測定結果 ダイオキシン類（令和6年7月 横須賀市ホームページ）



注：赤破線はC類型の環境基準値（8mg/L）及びB類型の環境基準値（3mg/L）を示す。
 出典：よこすかの環境測定結果（令和6年7月 横須賀市ホームページ）

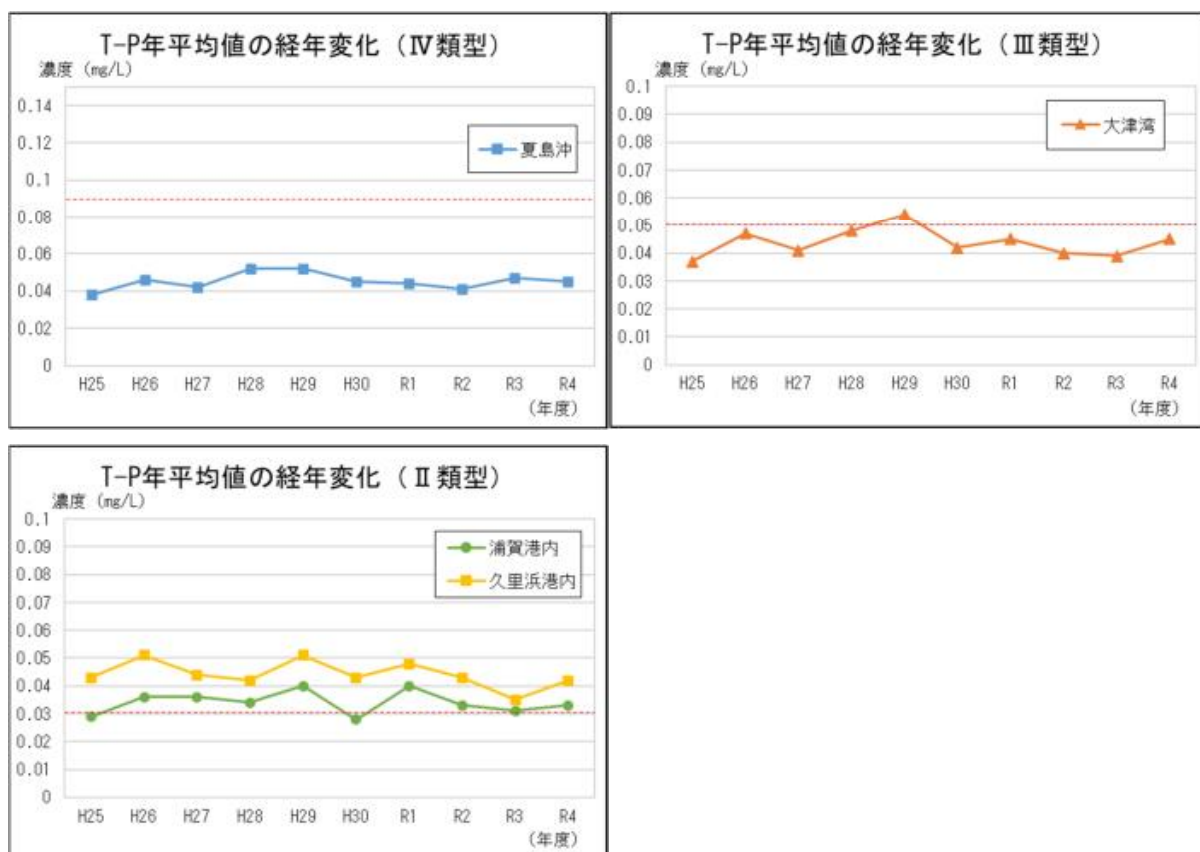
図 2-2-46 COD（75%値）の経年変化



注：赤破線はⅣ類型の環境基準値（1.0mg/L）、Ⅲ類型の環境基準値（0.6mg/L）、及びⅡ類型の環境基準値（0.3mg/L）を示す。

出典：よこすかの環境測定結果（令和6年7月 横須賀市ホームページ）

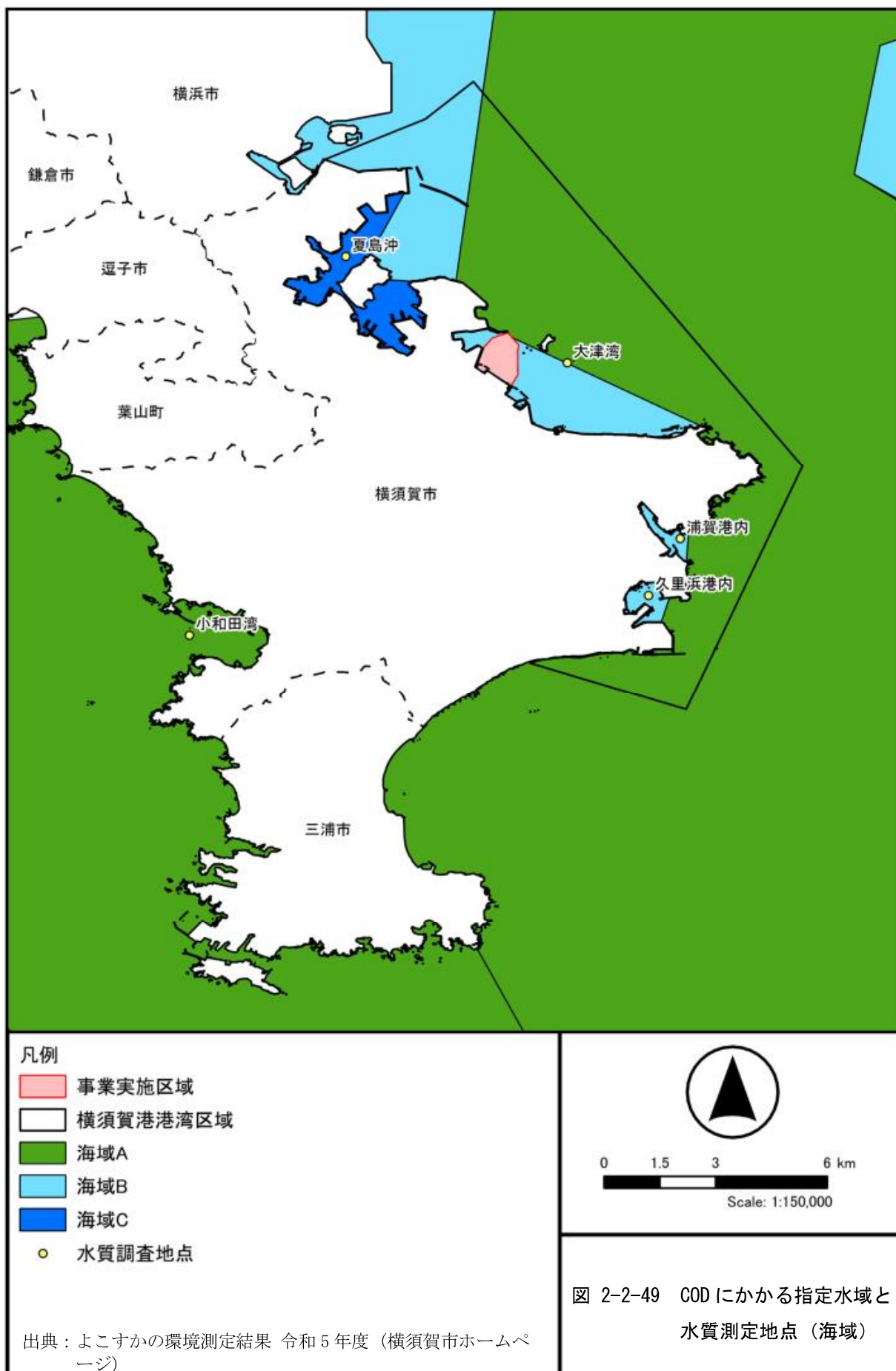
図 2-2-47 全窒素 T-N（年平均値）の経年変化

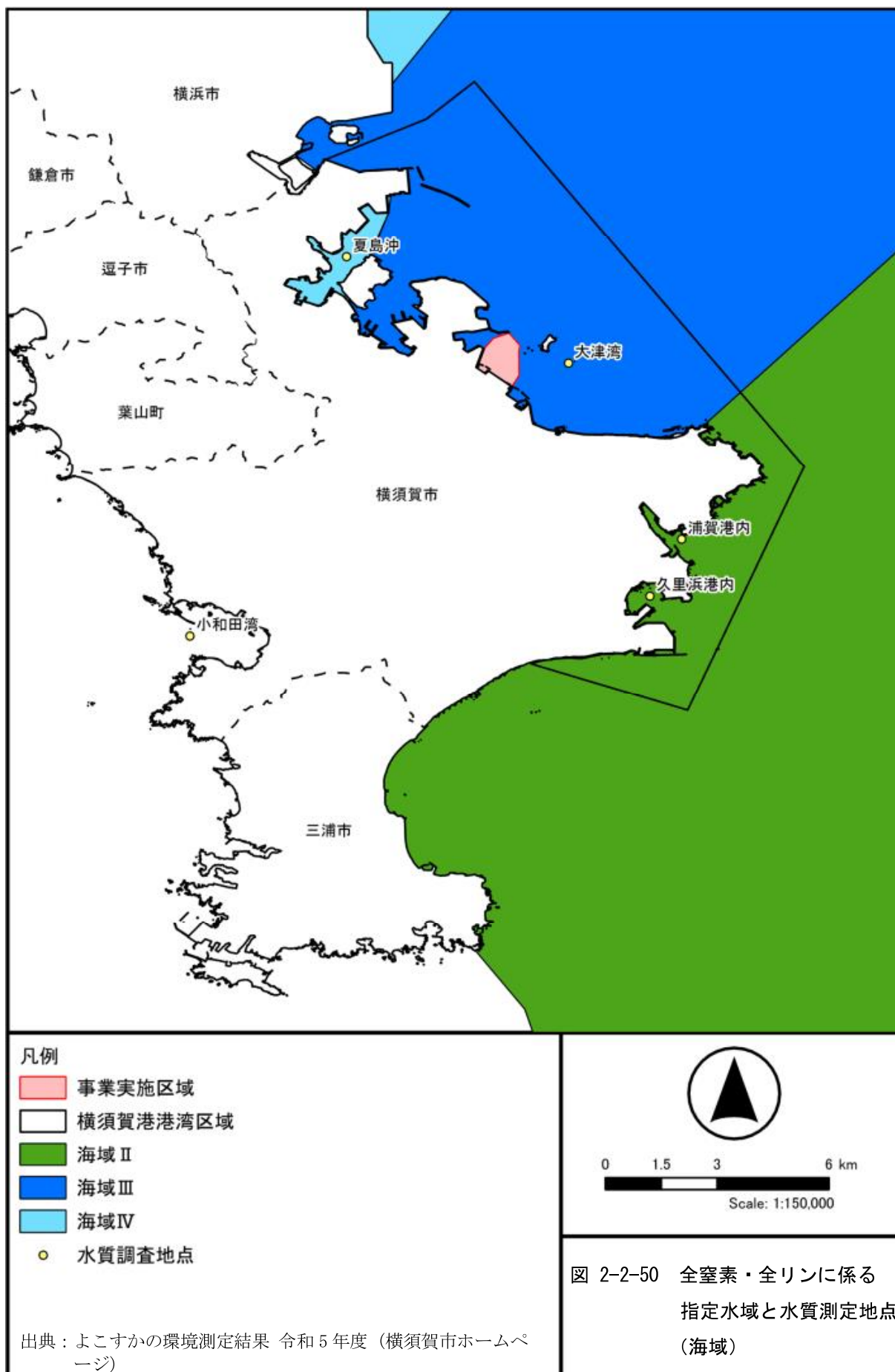


注：赤破線はⅣ類型の環境基準値（0.09mg/L）、Ⅲ類型の環境基準値（0.05mg/L）、及びⅡ類型の環境基準値（0.03mg/L）を示す。

出典：よこすかの環境測定結果（令和6年7月 横須賀市ホームページ）

図 2-2-48 全リンT-P（年平均値）の経年変化





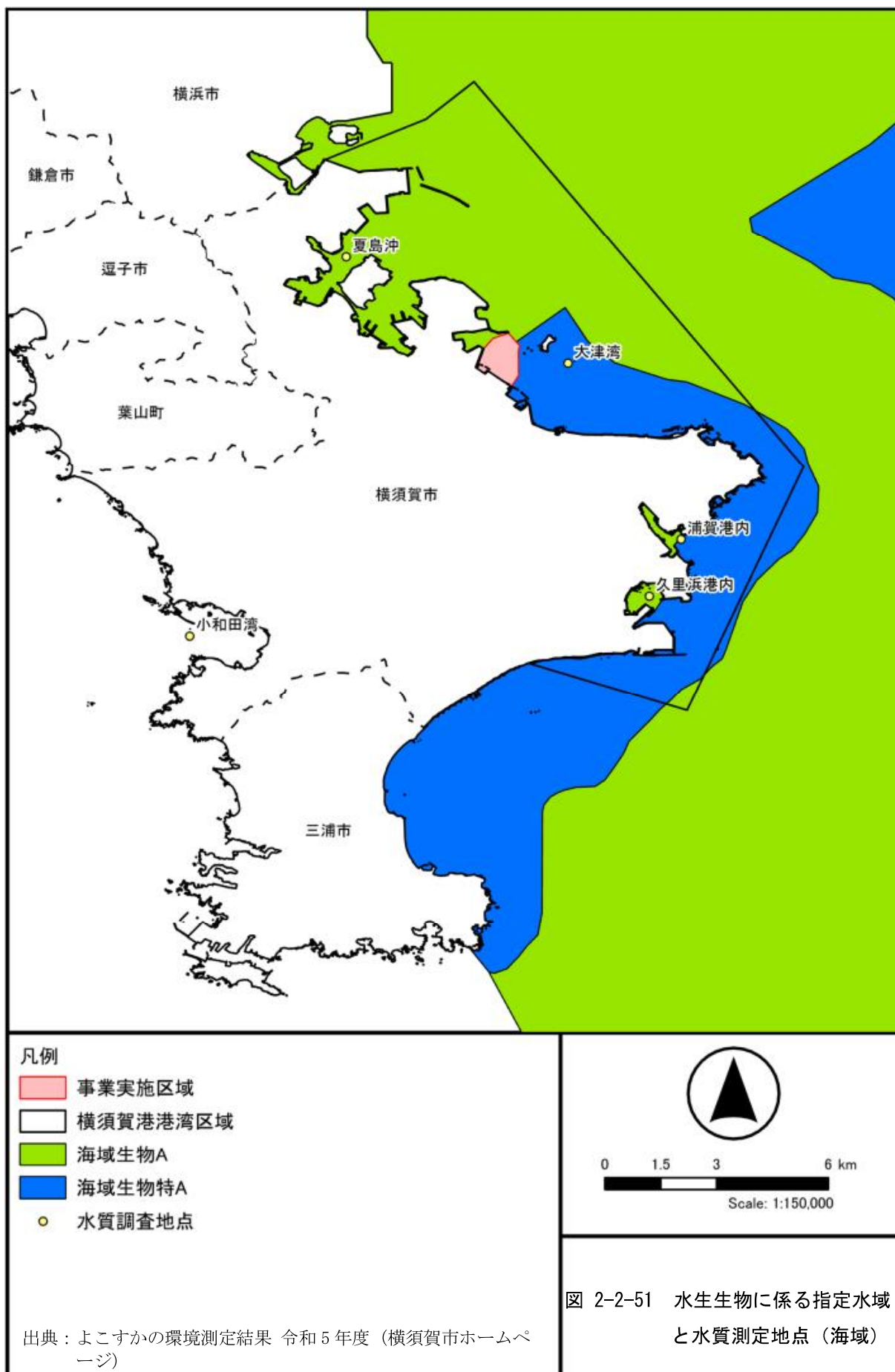


図 2-2-51 水生生物に係る指定水域
と水質測定地点（海域）

ペルフルオロオクタンスルホン酸（PFOS）及びペルフルオロオクタン酸（PFOA）の測定結果（合計値）は表 2-2-48 に、測定地点は図 2-2-52 に示す。測定結果は全て暫定指針値である 50ng/L 以下を満足していた。

表 2-2-48 PFOS、PFOA の測定結果（令和 4 年 9 月～令和 6 年 7 月）

単位：ng/L

水域名	採水地点	測定値					
		令和4年 9月7日	令和4年 10月12日	令和4年 11月9日	令和4年 12月7日	令和5年 1月11日	令和5年 2月1日
東京湾	深浦湾内	2.4	2.2	3.4	2.1	1.6	2.4
	横須賀港内1	2.8	1.8	2.1	1.7	1.2	2.1
	横須賀港内2	2.5	1.7	2.2	1.5	1.3	1.4
	横須賀港内3	2.3	1.9	1.7	1.5	1.4	1.6
	猿島周辺	2.2	3.1	1.6	1.8	1.3	1.7
	大津湾	2.9	1.7	1.6	1.6	1.3	1.8
	走水沖	2.5	1.6	1.5	1.2	1.1	1.4

単位：ng/L

水域名	採水地点	測定値					
		令和5年 3月8日	令和5年 4月18日	令和5年 5月10日	令和5年 6月7日	令和5年 7月5日	令和5年 8月2日
東京湾	深浦湾内	1.9	2.3	5.1	3.2	3.2	2.3
	横須賀港内1	1.9	1.5	1.7	2.0	3.0	2.1
	横須賀港内2	2.0	1.4	1.7	2.0	2.9	2.4
	横須賀港内3	1.8	2.0	2.3	2.1	2.7	1.7
	猿島周辺	1.8	1.3	1.9	2.1	2.8	1.8
	大津湾	1.7	1.8	1.7	2.3	2.9	2.0
	走水沖	1.9	1.7	1.6	1.9	2.7	2.5

単位：ng/L

水域名	採水地点	測定値					
		令和5年 9月6日	令和5年 10月4日	令和5年 11月1日	令和5年 12月6日	令和6年 1月10日	令和6年 2月7日
東京湾	深浦湾内	2.0	2.6	1.9	1.9	1.9	2.3
	横須賀港内1	1.9	2.3	1.7	1.5	1.4	1.5
	横須賀港内2	2.1	2.4	1.6	2.1	1.3	1.2
	横須賀港内3	2.3	2.4	2.1	1.8	1.5	1.5
	猿島周辺	1.6	1.9	1.4	1.6	1.1	1.2
	大津湾	1.5	2.1	1.3	1.5	1.4	1.2
	走水沖	1.6	1.9	1.2	1.9	1.2	1.3

単位：ng/L

水域名	採水地点	測定値				
		令和6年 3月11日	令和6年 4月10日	令和6年 5月8日	令和6年 6月5日	令和6年 7月3日
東京湾	深浦湾内	2.3	2.1	1.2	4.1	3.6
	横須賀港内1	1.6	1.1	0.7	3.2	3.9
	横須賀港内2	1.6	1.2	0.9	2.7	3.8
	横須賀港内3	1.7	1.1	0.4	4.3	3.6
	猿島周辺	1.4	1.0	0.5	2.9	3.6
	大津湾	1.3	0.9	0.7	3.1	3.4
	走水沖	1.4	0.9	0.6	2.5	4.0

出典：PFOS、PFOA の水質測定結果について（令和 6 年 8 月閲覧、横須賀市ホームページ）



出典：PFOS、PFOA の水質測定結果について（令和 6 年 8 月閲覧、横須賀市ホームページ）

図 2-2-52 PFOS、PFOA 測定位置

イ. 横須賀港港湾環境現況調査

(ア) 調査概要

「横須賀港港湾環境現況調査業務」における測定結果について示す。

水質調査の概要は表 2-2-49 に、水質調査地点及び環境基準の類型は表 2-2-50 に、調査地点は図 2-2-53 に示すとおりである。

事業実施区域の周囲では、横須賀港港湾環境現況調査において海域 4 地点で実施されている。

表 2-2-49 水質調査概要

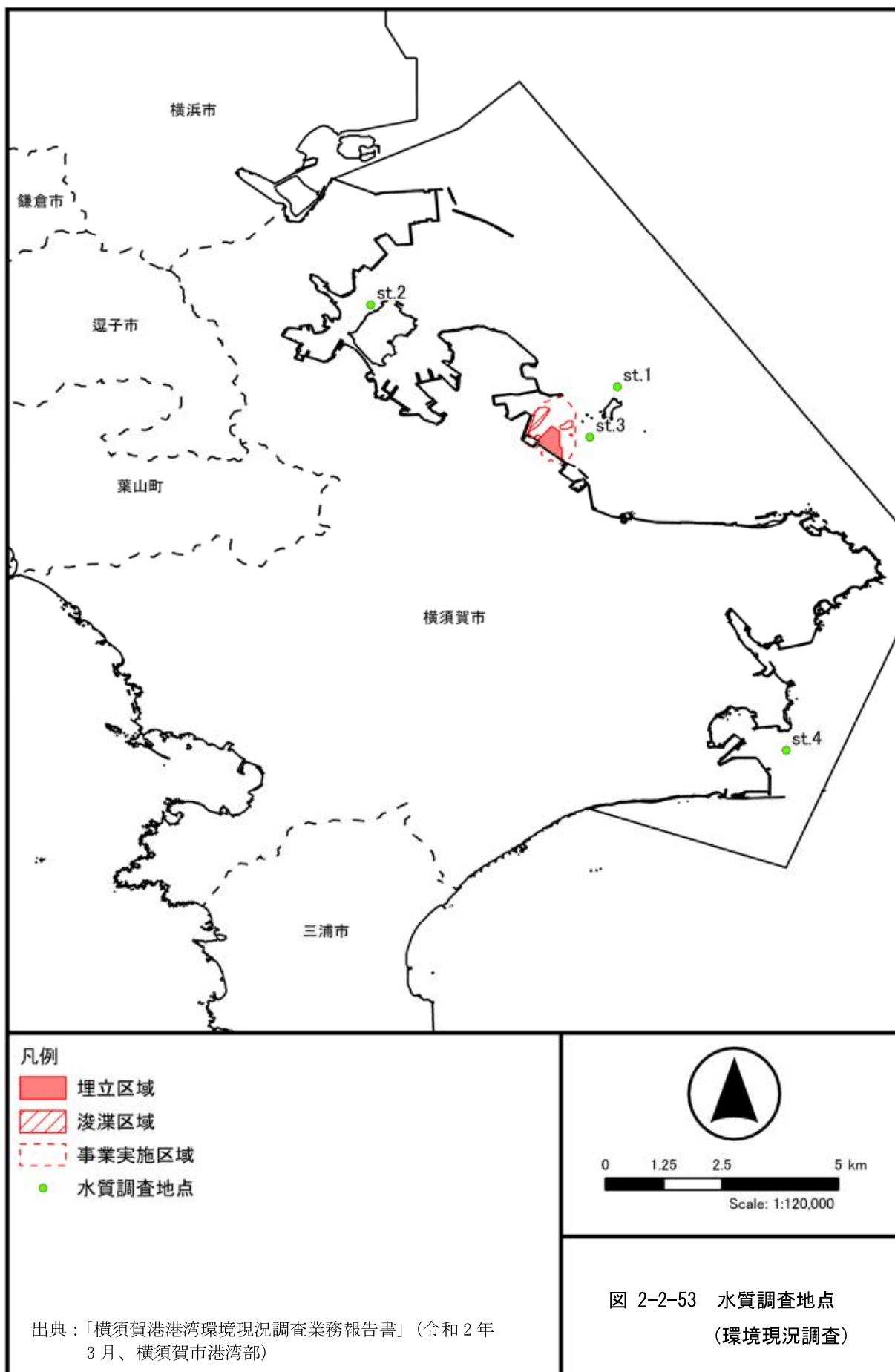
区分	横須賀港港湾環境現況調査		
	海域		
調査機関	横須賀市港湾部		
調査期間	令和元年度		
調査地点	4 地点		
調査項目	生活環境項目	健康項目	ダイオキシン類
調査頻度	4 回 (春夏秋冬)	2 回 (夏冬)	2 回 (夏冬)
調査位置	図 2-2-53 に示した調査地点		

出典：「横須賀港港湾環境現況調査業務報告書」(令和 2 年 3 月、横須賀市港湾部)

表 2-2-50 水質調査地点及び環境基準の類型

区分	調査地点		生活環境項目		窒素・磷		調査機関
	番号	名称	水域名	環境基準 類型	水域名	環境基準 類型	
横須賀港 環境現況調査	海域	7 St. 1	東京湾	A	東京湾 (二)	Ⅲ	横須賀市 港湾部
		8 St. 2	東京湾	C	東京湾 (ハ)	Ⅳ	横須賀市 港湾部
		9 St. 3	東京湾	B	東京湾 (二)	Ⅲ	横須賀市 港湾部
		10 St. 4	東京湾	B	東京湾 (ホ)	Ⅱ	横須賀市 港湾部

出典：「横須賀港港湾環境現況調査業務報告書」(令和 2 年 3 月、横須賀市港湾部)



(イ) 調査結果

横須賀港港湾環境現況調査の結果は、表 2-2-51 に示すとおりである。

(a) 人の健康の保護に関する環境基準との比較

人の健康の保護に関する環境基準項目（健康項目）は、すべての項目で夏季及び冬季の調査で定量下限値未満であり、環境基準を満足している。なお、健康項目調査結果は全ての項目で環境基準を満足していたため、表 2-2-51 には掲載していない。

(b) 生活環境の保全に関する環境基準との比較

St. 1（猿島沖）の海域は、COD 等は A 類型に、T-N・T-P はⅢ類型に指定されている。同様に、St. 2（夏島沖）は C・Ⅳ類型に、St. 3（平成沖）は B・Ⅲ類型に、St. 4（久里浜港口）は A・Ⅱ類型にそれぞれ指定されている。

水素イオン濃度（pH）は、St. 1～3 において春季の表層で環境基準の超過が見られる。

化学的酸素要求量（COD）は、春季から秋季にかけて St. 1 の表層で環境基準の超過が見られた。St. 3 は春季及び秋季、St. 4 は夏季及び秋季に表層で基準値を超過していた。St. 2 ではすべての調査で環境基準を満足していた。

溶存酸素量（DO）は、春季及び夏季に St. 1、4 の下層で基準値を下回っていた。

大腸菌群数は秋季及び冬季に調査が実施されているが、いずれの地点でも定量下限値未満であった。

n-ヘキサン抽出物質は、すべての調査で定量下限値未満であった。

全窒素（T-N）は、秋季の St. 4 表層で環境基準を超過していた。全燐（T-P）は、春季に St. 3 の表層で、夏季に St. 4 の表層で、秋季には St. 3、4 の表層で環境基準を超過していた。冬季は全地点で基準値を満足していた。

(c) ダイオキシン類に関する環境基準との比較

ダイオキシン類については、全ての地点において環境基準値を満足していた。

表 2-2-51 (1) 水質調査結果 (海域、生活環境項目)

項目	単位	層	St. 1 (A類型/Ⅲ類型)					St. 2 (C類型/Ⅳ類型)				
			春季	夏季	秋季	冬季	環境基準	春季	夏季	秋季	冬季	環境基準
一般項目	調査時刻	—	12:21	9:48	11:19	11:33	—	12:58	11:14	10:31	12:22	—
	水深	m	15	15.5	15.5	15	—	15.6	15.1	14.6	15.1	—
	透明度	m	2.6	2.8	3.4	11.8	—	2.7	2.5	3.6	11	—
	水色	—	緑褐色	暗灰黄緑色	暗灰黄緑色	暗緑色	—	緑褐色	暗灰黄緑色	暗灰黄緑色	暗青色	—
生活環境項目	水温	上層	20.3	27.9	19	13.2	—	21.7	28	18.8	12.7	—
		下層	17.9	22.5	21.3	13.3	—	17.6	20.4	20.3	13.5	—
	全窒素 (T-N)	上層	0.31	0.26	0.43	0.53	≤0.6	0.32	0.23	0.47	0.62	≤1.0
		下層	0.32	0.2	0.43	0.55	—	0.44	0.29	0.44	0.54	—
	全磷 (T-P)	上層	0.025	0.039	0.042	0.036	≤0.05	0.028	0.036	0.042	0.044	≤0.09
		下層	0.031	0.036	0.042	0.041	—	0.056	0.05	0.044	0.036	—
	水素イオン濃度 (pH)	上層	8.6	8.4	8.3	8.1	7.8 ≤	8.5	8.3	8.3	8.1	7.0 ≤
		下層	8.1	8.1	8.1	8.1	≤8.3	8.0	8.0	8.1	8.1	≤8.3
	化学的酸素要求量 (COD _{mn})	上層	4.3	2.3	2.9	1.4	≤2	4.1	2.8	2.8	1.3	≤8
		下層	2.0	1.9	1.9	1.3	—	1.9	1.7	2.1	1.1	—
	溶存酸素量 (DO)	上層	13.4	7.7	12.0	8.8	7.5 ≤	11.7	7.9	11.6	8.7	2 ≤
		下層	5.9	5.5	8.7	8.6	—	4.5	4.8	9.2	8.5	—
大腸菌群数 (MPN法)	上層	—	—	<2	<2	1,000MPN/100ml以下	—	—	<2	<2	—	
	下層	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
n-ヘキサン抽出物質	上層	<0.5	<0.5	<0.5	<0.5	検出されないこと	<0.5	<0.5	<0.5	<0.5	—	
	下層	<0.5	<0.5	<0.5	<0.5	—	<0.5	<0.5	<0.5	<0.5	—	

注1：採水日は、令和元年5月27日、28日 (St. 4のみ) (春季)、令和元年8月6日 (夏季)、令和元年11月7日 (秋季)、令和2年1月15日 (冬季)

注2：上層は海面下0.5m、下層は海底面上1.0mの試料を採取した。

注3：すべての項目で定値未達であったため、健康項目は未記載とした。

出典：「横須賀港湾環境現況調査業務報告書」 (令和2年3月、横須賀市港湾部)

表 2-2-51 (2) 水質調査結果（海域、生活環境項目）

項目	単位	層	St. 3 (B類型/Ⅲ類型)					St. 4 (A類型/Ⅱ類型)				
			春季	夏季	秋季	冬季	環境基準	春季	夏季	秋季	冬季	環境基準
一般項目	調査時刻	—	11:47	7:58	9:57	11:06	—	7:27	14:31	14:15	8:50	—
	水深	m	22.3	21.2	21.3	22.5	—	18.1	17.8	17.0	17.4	—
	透明度	m	2.1	2.8	3.4	11.3	—	8.3	2.6	5.4	12	—
	水色	—	緑褐色	暗灰黄緑色	暗灰黄緑色	暗青色	—	暗緑色	暗灰黄緑色	暗緑色	暗青色	—
	水温	℃	22.5	27.2	18.9	13.3	—	18.6	26.2	20.3	15.1	—
生活環境項目	全窒素 (T-N)	上層	17.1	20.1	20.9	13.9	≤0.6	17.9	22.8	21.7	15.7	≤0.3
		下層	0.4	0.27	0.47	0.53		0.22	0.17	0.32	0.28	
	全磷 (T-P)	上層	0.28	0.18	0.31	0.49	≤0.05	0.20	0.14	0.20	0.25	≤0.03
		下層	0.061	0.038	0.051	0.037		0.021	0.031	0.038	0.026	
	水素イオン濃度 (pH)	上層	0.035	0.034	0.038	0.034	7.8≤ ≤8.3	0.023	0.026	0.028	0.022	7.8≤ ≤8.3
下層		8.5	8.3	8.3	8.1	8.1		8.3	8.2	8.1		
化学的酸素要求量 (COD _m)	上層	mg/L	8.0	8.0	8.0	8.1	≤3	1.6	2.5	2.2	1.0	≤2
	下層	4.6	2.5	3.1	1.3	1.1		1.8	1.4	0.9		
溶存酸素量 (DO)	上層	mg/L	1.6	1.1	1.3	1.3	5≤	7.7	8.3	10.3	8.5	7.5≤
	下層	13.5	7.2	12.6	8.8	6.9		6.7	8.6	8.3		
大腸菌群数 (MPN法)	上層	MPN /100ml	5.8	5.7	6.4	8.8	—	—	—	<2	13	1,000MPN /100ml以下
	下層	—	—	<2	2	—		—	—	—		
n-ヘキサン抽出物質	上層	mg/L	<0.5	<0.5	<0.5	<0.5	検出され ないこと	<0.5	<0.5	<0.5	<0.5	検出され ないこと
	下層	<0.5	<0.5	<0.5	<0.5	<0.5		<0.5	<0.5	<0.5		

注1：採水日は、令和元年5月27日、28日(St. 4のみ)（春季）、令和元年8月6日（夏季）、令和元年11月7日（秋季）、令和2年1月15日（冬季）

注2：上層は海面下0.5m、下層は海底面上1.0mの試料を採取した。

注3：すべての項目で定量下限値未満であったため、健康項目は未記載とした。

出典：「横須賀港湾環境現況調査業務報告書」（令和2年3月、横須賀市港湾部）

表 2-2-51 (3) 水質調査結果（海域、ダイオキシン類）

調査地点	単位	夏季	冬季	環境基準値
St.1 猿島沖	pg-TEQ/L	0.085	0.069	1 以下
St.2 夏島沖		0.088	0.078	
St.3 平成沖		0.087	0.076	
St.4 久里浜港口		0.082	0.069	

注：夏季は令和元年8月6日、冬季は令和2年1月15日実施

出典：「横須賀港港湾環境現況調査業務報告書」（令和2年3月、横須賀市港湾部）

ウ．東京湾水質調査結果

東京湾全体の水深分布や季節的变化を把握するために、湾岸の各自治体が実施した東京湾の水質測定結果をもとに月別水平分布が作成されている。測定層は、上層（海水面下 0.5m）及び下層（海底面上 1.0m）の 2 層である。

「東京湾水質調査報告書（令和 2 年度）」（令和 4 年 3 月、東京湾岸自治体環境保全会議）における COD、DO、T-N、T-P の月別水平分布の概要は、以下に示すとおりである。

また、「東京湾水質調査報告書（令和 2 年度）」における COD、DO、T-N、T-P の月別水平分布は、図 2-2-54 に示すとおりである。

（ア）化学的酸素要求量 COD

COD については、上層・下層ともに通年で東京湾北部の値が高い傾向にある。横須賀港周辺においては、表層で 1.0mg/L 以上 5.0mg/L 以下の範囲で変動しているものの、東京湾北部と比較すると全体的に低い傾向にある。

（イ）溶存酸素量 DO

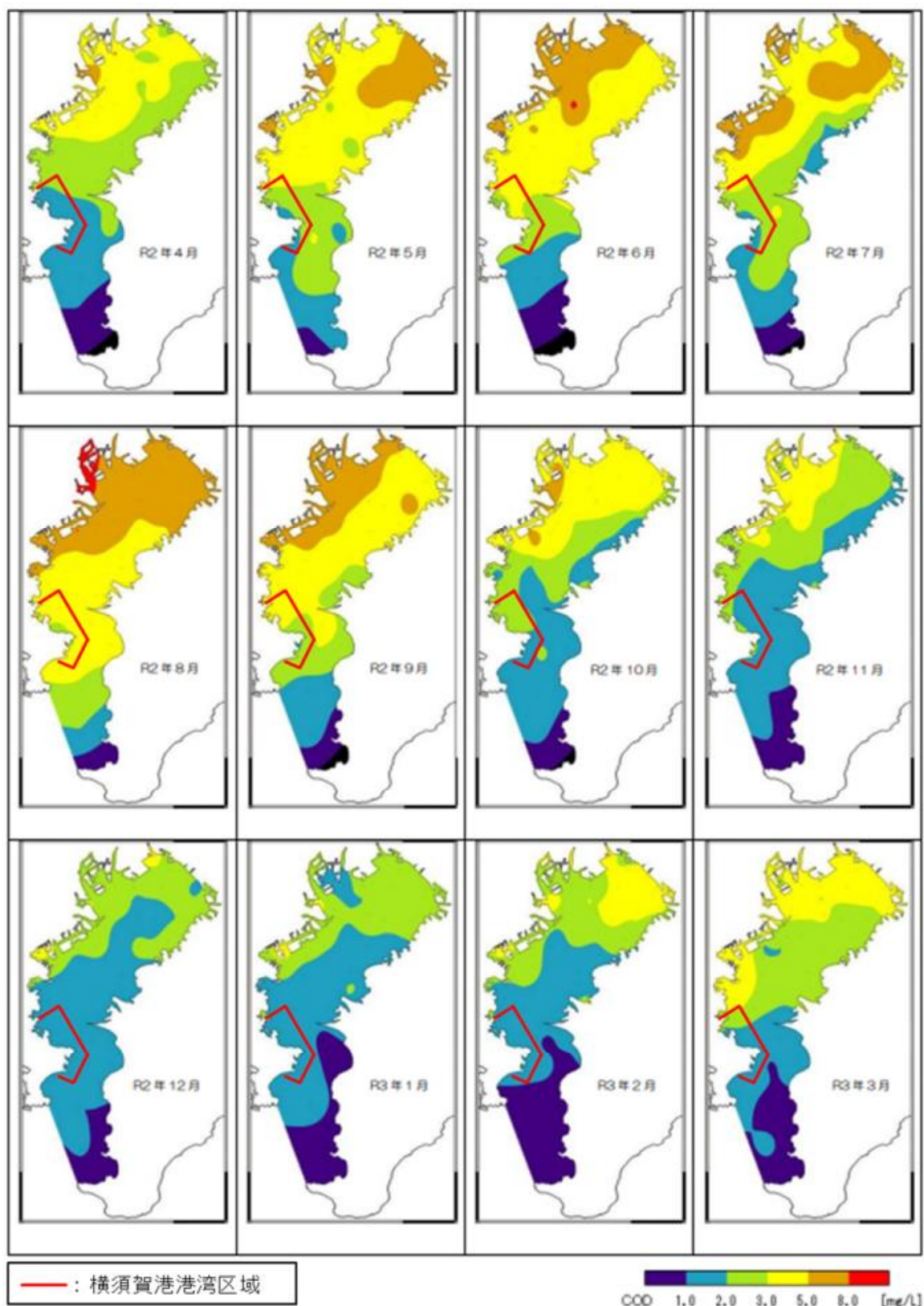
DO については、夏季に東京湾北部の下層で 2.0mg/L 以下と低い分布が見られる。横須賀港港湾区域では、全月・全層で概ね 5.0mg/L 以上の分布が生じており、東京湾北部と比較して貧酸素的な環境ではないといえる。

（ウ）全窒素 T-N・全リン T-P

T-N については、上層において通年で東京湾北西部の値が高い傾向にあった。横須賀港港湾区域は時期によって外洋水の影響を受けており、通年低い値を維持していた。

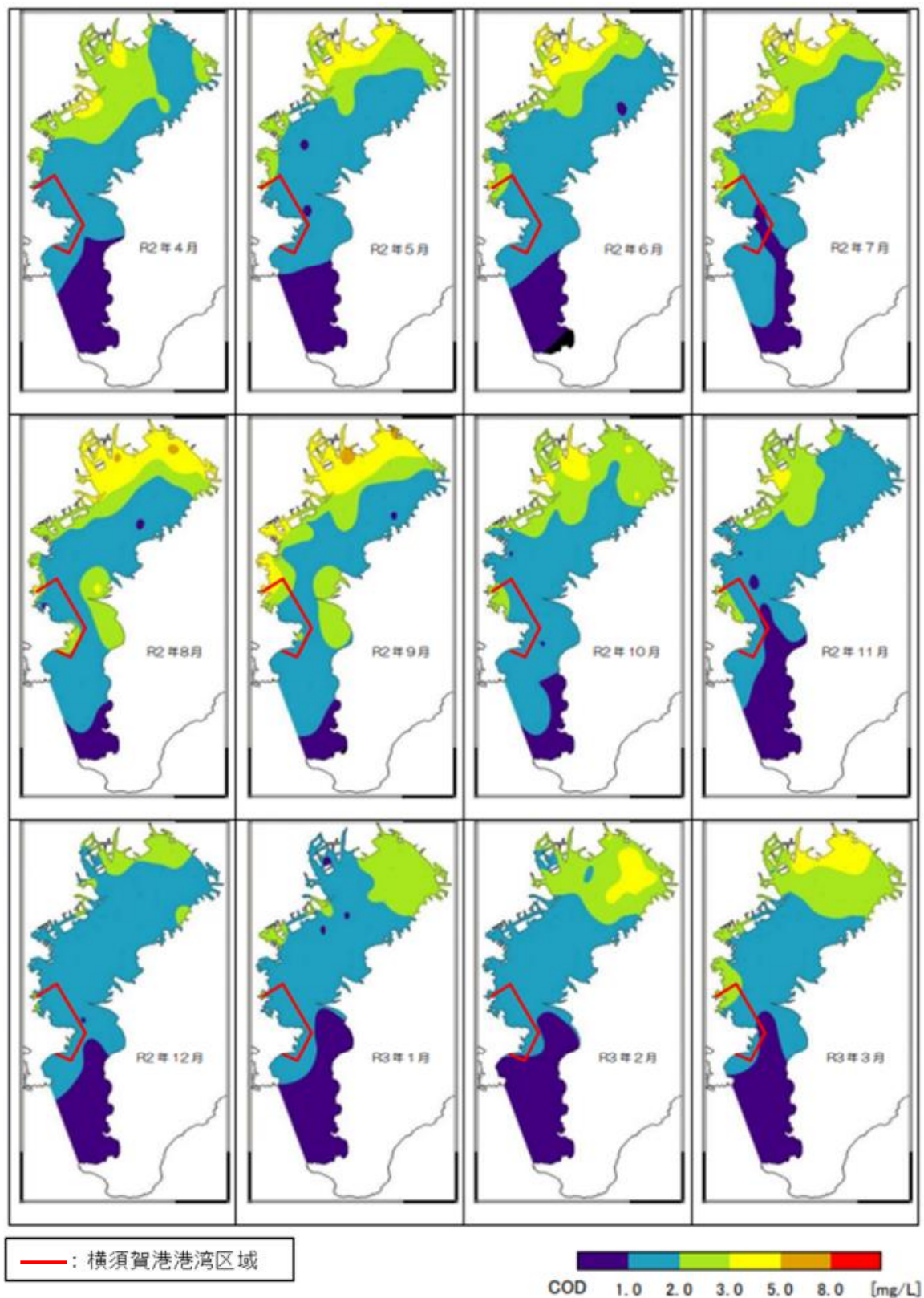
T-P については、上層において春季～夏季で東京湾北西部の値が高い傾向にあった。横須賀港港湾区域は南側で外洋水の影響を受けており、全域で通年低い値を維持していた。

東京湾奥部では、COD、T-N・T-P は通年で東京湾北西部の値が高い傾向にあり、夏季には下層において DO が極めて低いエリアが見られる。一方、横須賀港港湾区域においては、東京湾奥部と外洋両方の影響を受けており、COD や DO は東京湾奥部、T-N・T-P は外洋に近い性質を示している。



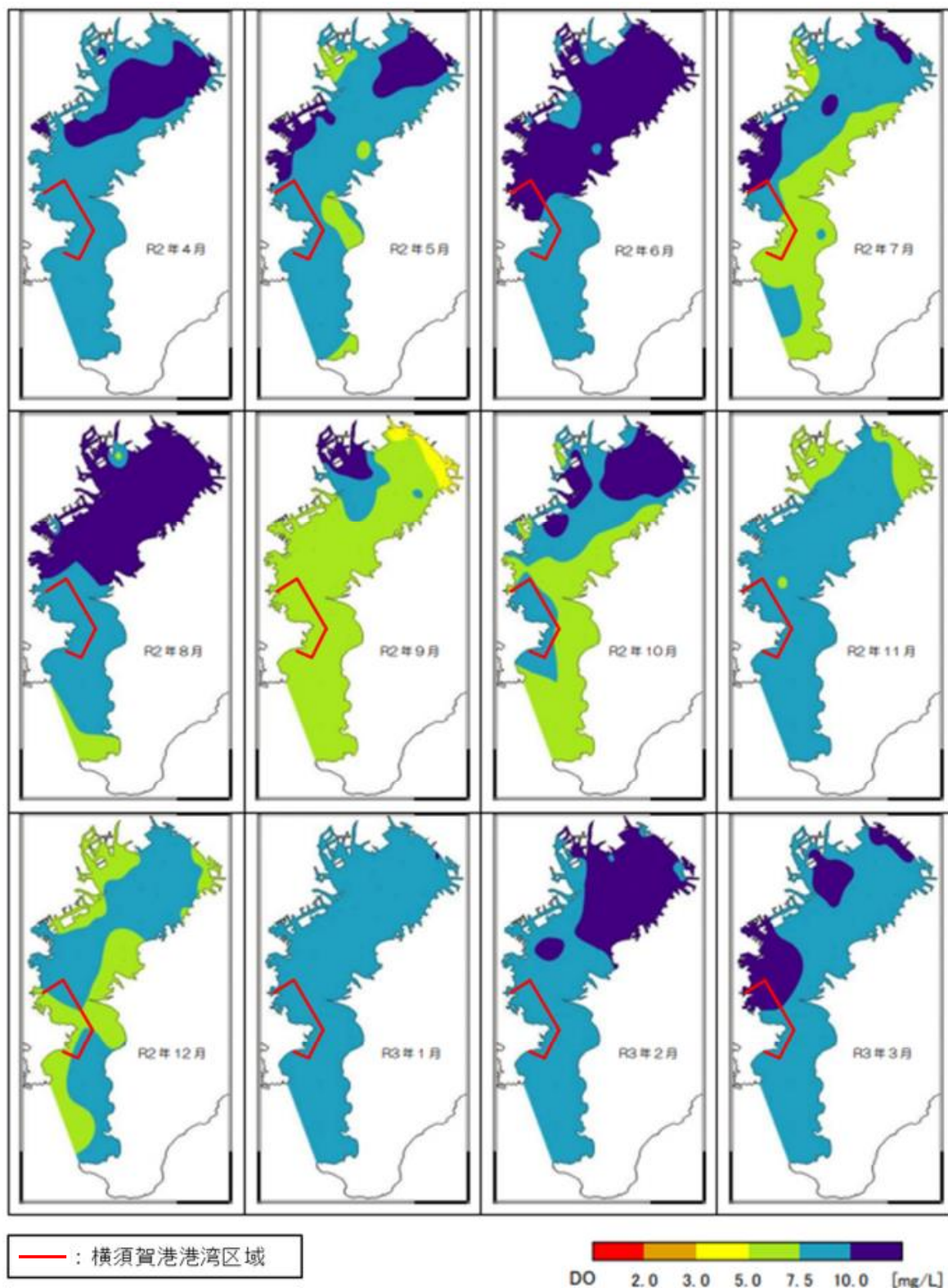
出典：「東京湾水質調査報告書（令和2年度）2020」（令和4年3月、東京湾岸自治体環境保全会議）

図 2-2-54 (1) 化学的酸素要求量 COD（上層）の月別水平分布



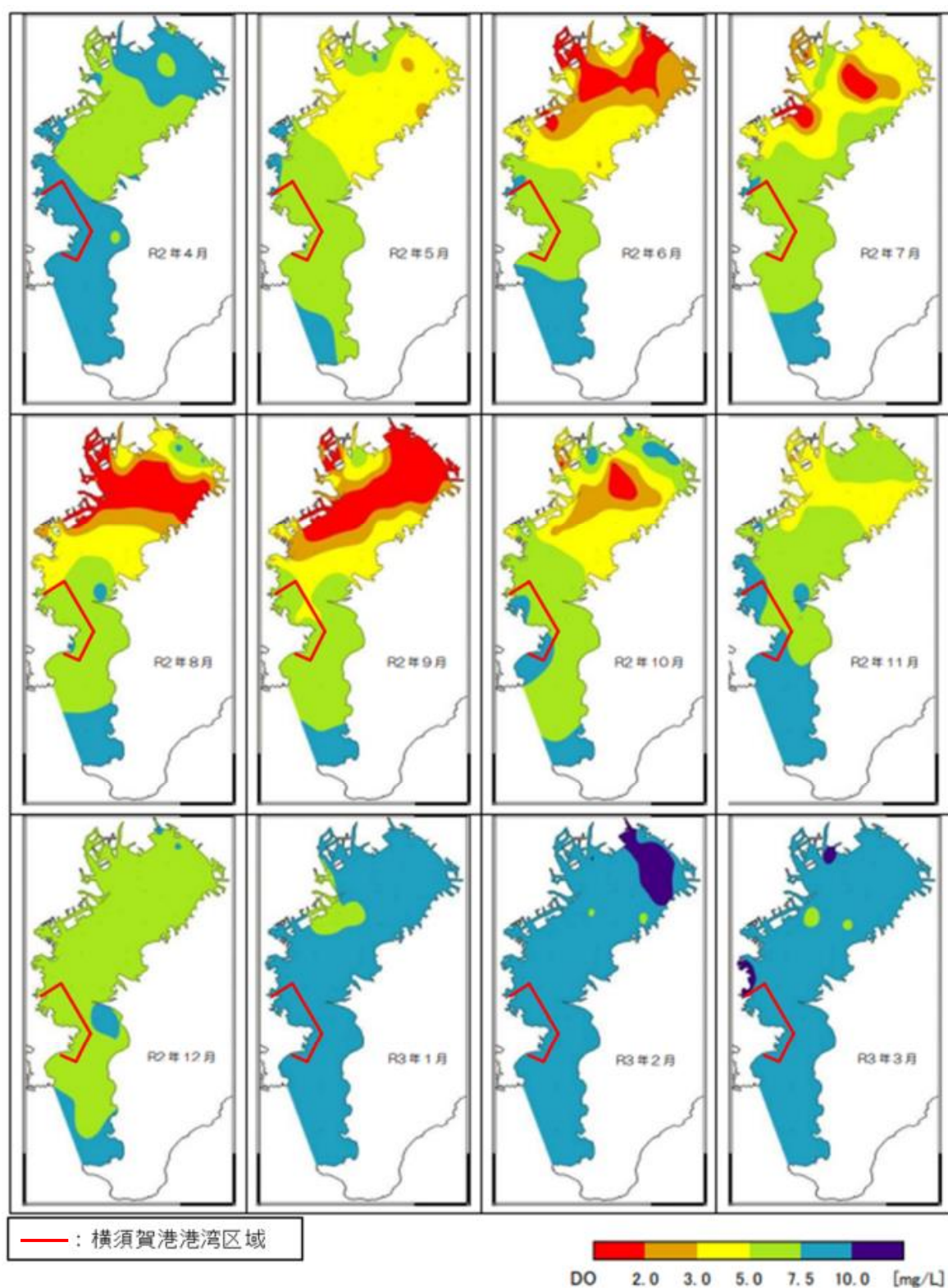
出典：「東京湾水質調査報告書（令和2年度）2020」（令和4年3月、東京湾岸自治体環境保全会議）

図 2-2-54 (2) 化学的酸素要求量 COD（下層）の月別水平分布



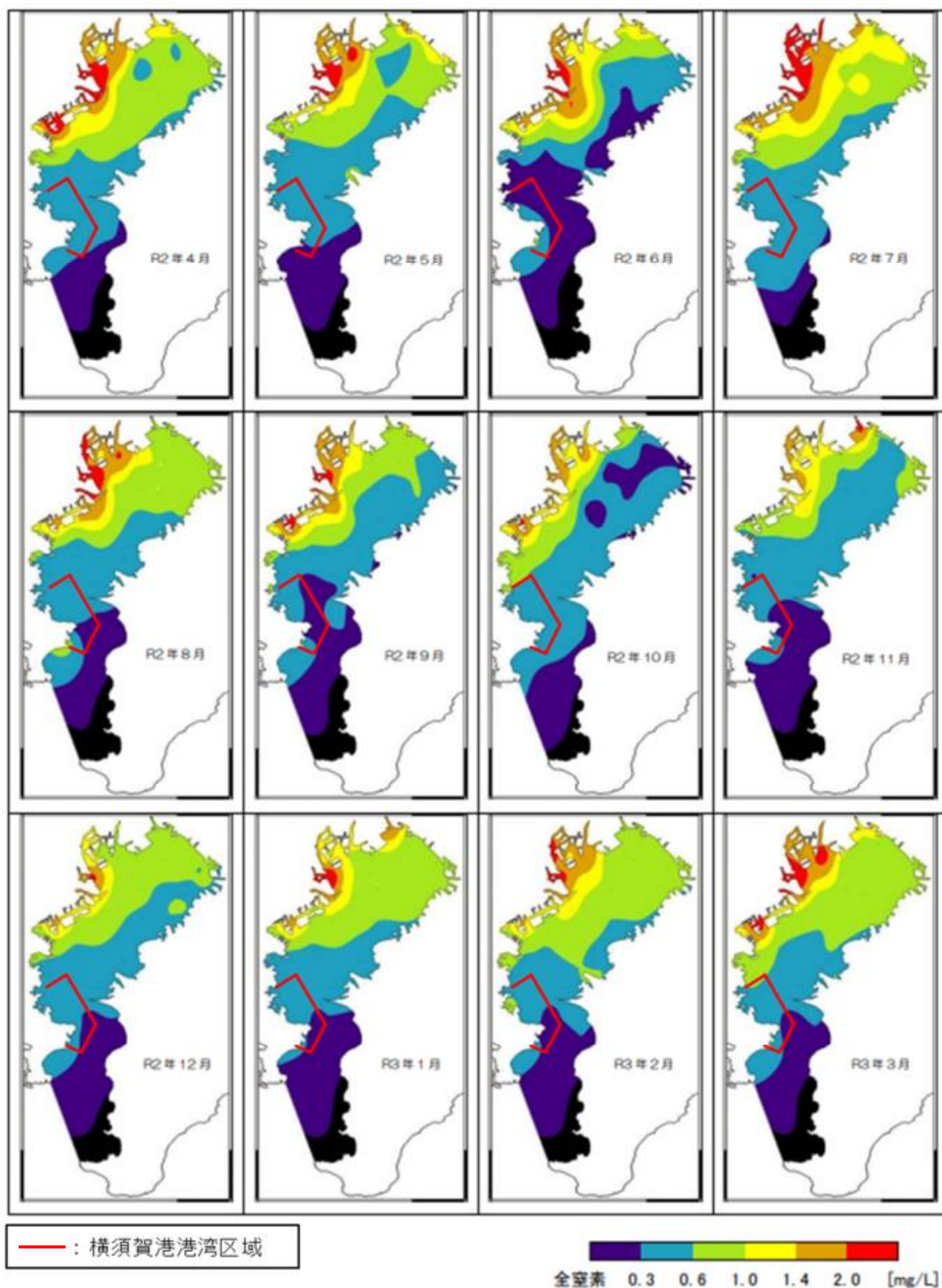
出典：「東京湾水質調査報告書（令和2年度）2020」（令和4年3月、東京湾岸自治体環境保全会議）

図 2-2-54 (3) 溶存酸素量 DO（上層）の月別水平分布



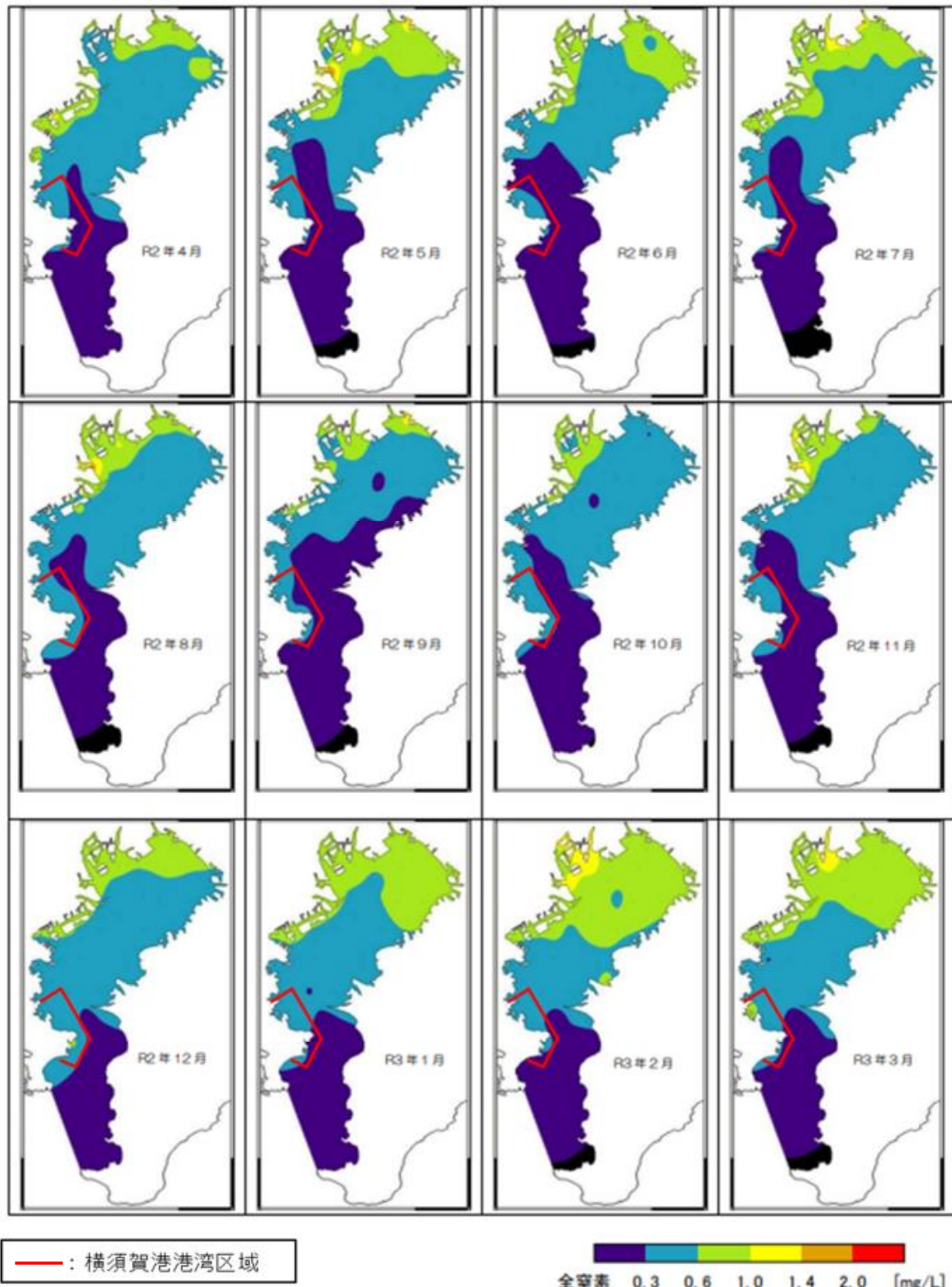
出典：「東京湾水質調査報告書（令和2年度）2020」（令和4年3月、東京湾岸自治体環境保全会議）

図 2-2-54 (4) 溶存酸素量 DO（下層）の月別水平分布



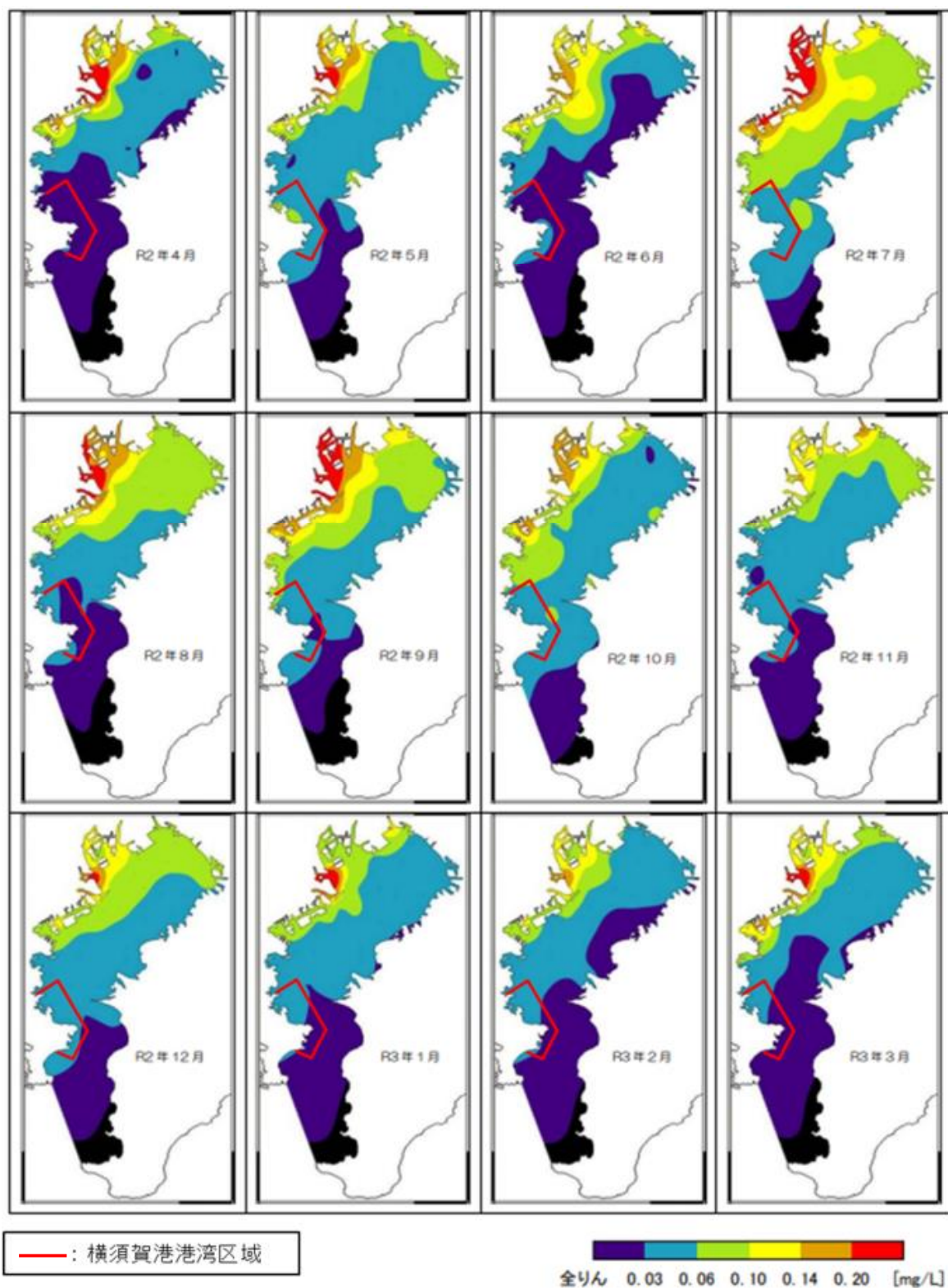
出典：「東京湾水質調査報告書（令和2年度）2020」（令和4年3月、東京湾岸自治体環境保全会議）

図 2-2-54 (5) 全窒素 T-N（上層）の月別水平分布



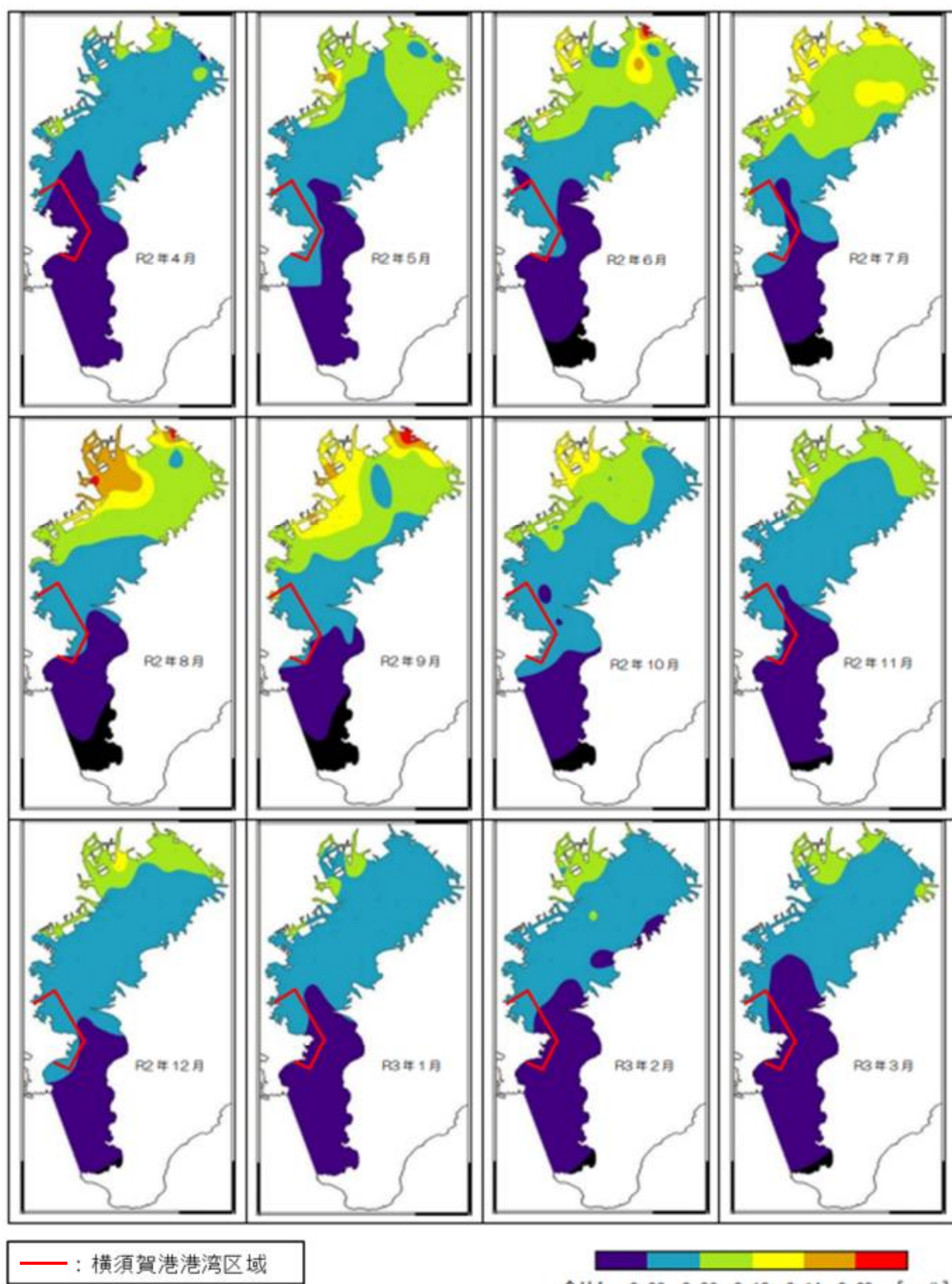
出典：「東京湾水質調査報告書（令和2年度）2020」（令和4年3月、東京湾岸自治体環境保全会議）

図 2-2-54 (6) 全窒素 T-N（下層）の月別水平分布



出典：「東京湾水質調査報告書（令和2年度）2020」（令和4年3月、東京湾岸自治体環境保全会議）

図 2-2-54 (7) 全リン T-P（上層）の月別水平分布



出典：「東京湾水質調査報告書（令和2年度）2020」（令和4年3月、東京湾岸自治体環境保全会議）

図 2-2-54 (8) 全リン T-P（下層）の月別水平分布